



更に新都の經營を企てられるなどは、到底常識を以て判断することは出来ぬ。喜田文學博士は其理由の一つとして、其當時洛北に居た豪族秦氏に國庫の窮乏を援けさせる手段の爲めに、長岡を棄て、秦氏の割據した地に帝都を遷すことゝなつた事情を數へて居られるが、或は真相に觸れた節があるかとも思はれる。兎に角其當時の造宮使長官藤原小黒麿の妻が太秦公島麿の女であつたことや、長岡京造宮使であつた種繼を暗殺した一派のものゝ計畫や、其他あらゆる朝廷の革新氣分が、長岡京の完成に努力するとよりも寧ろ新な地を相して完全な帝都を新設せしめる動機を作つたものと見ねばならぬ。

平安京の設計

平安京の計畫は、其大体に於て平城京と少しも異つて居ない。即ち中央に朱雀大路があつて左右兩京に分れ、東西南北の大路小路に依つて碁盤目に區劃せられ、皇居か朱雀大

路の北頭にあるなど、其組織は全然同一様式であるが、其異を擧げると北京極に於て一坊の列を増した事と、朱雀大路の幅員を二十八丈に増し（平城京では八丈）皇居の左右及び前面の道路を廣くして大宮通は幅員を十二丈、二條通は十七丈とし、其他皇居左右の東西大路を凡て十丈としたこと等である（小路幅員が四丈であつたこと）は平城京と同様、之を全區域に積算すると東西千五百八丈、南北千七百五十三丈となる（平城では東西千四百四十丈、南北千六百二十丈）而して全都の周圍に全部羅城を繞らしたことは記録にも明かであるが、其垣の厚さは六尺下外に七尺の犬走と一丈の溝とがあり、溝の外に二丈の餘地を存して居たと云ふ。之によつても平城京や藤原京が不完全ながらも矢張り羅城を繞らして居たことが推定される。羅城門は朱雀大路南端の門の名稱で他の各門にはそれ／＼別の名がつけられてあつた。

平安京造營の大業

長岡京建設不首尾の後を亨けて平安京がどうしてあんなに速く竣成したかは一寸と疑はれる處であるが、和氣清麿其他賢臣名將輔弼の功空しからずして延暦十三年に奠都奉告祭が行はれ、同十五年の正月朔日には天皇が大極殿の高御座に出御あらせられて朝賀を受けさせられるまでに竣工した。之を長岡京の七年を経て未だ諸門の出來上らなかつたのに較べると實に非常な差を發見する。併し財力が微弱であつたのと工匠の技術がまだ幼稚であつた爲めに、大規模な大内裡造營の事業は容易に完結しないで延暦二十四年まで繼續した。で其年參議藤原諸嗣が「方今天下の苦しむ所は軍事と造作とである、此の兩事を停めたならば百姓は堵に安ずるであらう」と奏上したのを御嘉納あらせられて造宮事業を停止させられたと云ふことである。新都の建設殊に大内裡造營の如きは實に國家

の大事業であつて、貧弱な財政で其完成を期するの容易からぬことは、寧ろ想察にあまるものがある。古來我國に數次行はれた遷都も忌憚なく云へば、恐らく計畫だけ出來て實現は其半にも達しなかつた場合が多かつたらうと思はれる。難波宮、飛鳥京、恭仁京さては、大津宮など何れもさうではなかつたらうか。殊に長岡京に至つては規模ばかり徒に堂々たるもので、實現したのはほんの其一部分だけであつたらしい。然るに平安京の經營に至つて前後十二年間極力其實現に努められ、古來曾て到達し得なかつた程度にまで大内裡の新營も出來、新都の繁榮をも招徠したので、たとへ延暦二十四年に一まづ造宮使を廢止せられたとは云へ、後世再び遷都を企てることの出來ない程、帝都が完備したと見るのを至當とする。

平安京の其後

然らば京師の地は延暦建都以來そのまゝ、何の故障もなく繁榮を増したかと云ふに、決してさうではなかつた。遷都の後僅四五十年で右京即ち西の京が漸次衰微し、人民は主として左京即ち東の京に集まるやうになつたばかりでなく、洛外である鴨川以東まで其繁榮が東漸した。現今の京都市が全く左京の區域に存在するのは已に數百年以前からの趨勢で、此事實は聽て都市計畫が唯徒に人爲的に成功するものでないことを證明する。都市の繁榮は地勢の優れた方に赴くのを原則とするもので、時代によつて其條項に異ひがあるけれど、斯の原則だけは古今東西を通じて一轍であらねばならぬ。

福原京

平安奠都以來更に遷都の議は起らなかつたが、平城上皇の平城京復都の御計畫を除いては、治承年間に平清盛が

敢行した福原遷都を唯一の記録破りとする。事實は清盛の横暴と公卿百官の意氣地なさを物語る最も適切な實例として傳へられて居る。其遷都の發表が如何にも唐突で何等の準備も整はなかつたに拘らず、無理無法に公卿百官を引率して聖上を福原の地にお迎へ申した清盛の暴舉は、到底常識で判断することは出来ぬ。福原と云ふのは今の神戸市の東に當る處で、豫て清盛が別墅を持つて居た生田を中心として帝都の新營を企てたのであるが、地勢上とても平城や平安のやうな平原都市の區劃を立てることが出来なかつたばかりでなく、地域が狹隘であつたから其規模も自ら小ならざるを得なかつた。治承四年五月三十日福原遷都の議が決せられて、其六月二日に御幸あらせられることとなり、安徳天皇を初め奉り後白河法皇高倉上皇の御三方とも福原の新都に移御あらせられ、百官之に供奉したけれど、宮殿とてもないので、三陸

下の行在所には清盛及び其一族の別業を之に充てたが、其他は何れも野宿の状態であつたと傳へられる。こんな無法な遷都が永續する筈はなく、さすがに剛腹な清盛も、賴朝舉兵の飛報や高倉上皇の御不豫さでは公卿達の反對などから、漸く悔悟の心を生じて其年十一月急に平安京復都を奏請し、僅に半年たらずで福原京は廢止されてしまつた。福原遷都が如何に悲惨であつたかは方丈記を見てもよく解る、今茲に今其一節を摘記する。

治承四年の六月の頃、俄に都遷り侍りき、いさ思の外なりしことごとしなり……(中略)……津の國今の京に到れり、所の有様を見るに、其地程狹くて條理を割るに足らず、北は山に添ひて高く南は海に近くて下れり、浪の音道にかまびすしくして、撞風殊こ烈しく、内裏は山の中なれば、かの木の丸殿もかくやまなか／＼様變りて優なるかたも侍りき。日々に毀ちて川もせきあへず運び下す家は、いづくに造れるにやあらん、なほ空しき地は多く作れる屋は少し。故郷は既に荒れて新都は未だ成らず、ありさしある人皆浮雲の思をなせり。本より此處に居たるものは地を失ひて愁ひ今移り住む人は土木の煩ある事を歎く。道の邊を見

れば、車に乗るべきは馬に乗り、衣冠布衣なるべきは直垂を着たり。都のてぶり忽ちに改まりて、唯鄙びたる武士に異ならず。これは世の亂るゝ瑞相とが聞き置けるもしるく、日を経つゝ世の中浮き立ちて人の心も治まらず……

福原遷都の眞意義

清盛が何の爲めに福原遷都を企てたかは、殆んど常識を以て判断することは出来ないけれど、之を單に彼の剛腹な振舞とのみ見る譯にはゆかない。炯眼な清盛は夙に大勢を察し帝都を最も交通の便利な地に遷して其繁榮を圖らうと考へたのだと観るのが妥當であらう。唯彼は適當な計畫者を有しなかつたのと自己の立案を自己一個の力で遂行しようとしたが爲めに大失敗を招いたのである。清盛は我國の繁榮を瀬戸内海に求め、夙に地を福原に相して其海港を修築し、別業を造つて親しく其地利を看取して居たので、其計畫の出發點から考へると、必ずしも無暴とばかりは云はれない。

鎌倉時代以後の平安京

平安京が明治維新に至るまで約一千百年間連綿として帝都であつたことを、單に其地の利宜しきを得たが爲めとか或は經營宜しきを得た爲めと云ふことにのみに歸するものがあるならば、それは甚だしい誤である。平氏の滅亡以來、政權は武門の手に移つて、皇居は政令の中心地ではなく、寧ろ閑散な朝廷儀容の式場となつて了ひ、鎌倉幕府の建設以後は唯消極的な守成都市として、皇居を圍繞する市民の集團たるに過ぎなかつたのは事實である。戰國時代に於ける皇室の式微は申すまでもなく、徳川時代になつてからは到底江戸の權勢繁榮に及ぶべくもなかつた。平安京は唯一天萬乗の天皇の宮殿が存立すると云ふ特殊の事情を有する以外に都市としてはあまり重きをなし得なかつたのである。殊に桓武天皇當時の平安京は早く已に破壊せられ、右京は全滅して左京だけが残り、大

内裏も再三再四炎上して再築の資さへ乏しくなつて竟に城外の所謂「里内裡」を皇居とせられた事實など綜合して考へると、平安京は單に國都の形式を具へて居たと云ふだけで、實質は疾くに幕府に移つたものと觀ることが出来る。

要するに古來我國の首都は位置の變遷が甚だ頻繁であつたけれども平城平安の支那式な大陸風の都市計畫を斷行するに至つて漸く安定したので、爲めに著しく文化の進歩を助けたことを認めねばならぬ。平安京の計畫に至つては、其規模の雄大なこと寔に稱賛すべきもので、中央幹線街路の幅員四十丈と云ふのは巴里のシャンゼリゼーより以上の大規模であり、東西大宮通の幅員百二十尺は正に東京市區改正の一等道路に相當する。其他市區の分割配置等其當時の都市としては全く理想的のものであつたのだが、惜いことには民力の發展が之に伴はな

かつたのと、建築技術の幼稚等から、斯程大規模な都市も竟に之を運用するの文化に達し得なかつたのである。都市經營のやうな物質的の文化は所詮我民族の得意とするところではなかつたと謂はねばならぬ。

明治維新の東京奠都

王政復古の新政を實施するに就いて、先づ天下の耳目を一新する爲めに遷都を斷行するのが最も時宜に適した措置であることは、古來幾度か行はれた遷都の事實がよく之を説明して居る。で當初大久保利通は遷都の必要あるを看破して、明治元年一月之を廟議で決定しやうと企てたが、多年の因襲に捉はれた皇居保守論者を説破することが出来なかつたけれど、其年三月二十二日に天皇は大阪へ行幸あらせられて御親征の行在所を此處に置かれた、之は恐らく大久保公の建議を試み採用して天下の容子を探ると云ふ意味であつたらうと思はれる。然るに間もなく江戸開城とな

つて徳川氏は駿府へ引上げたので、江戸は東京と命名せられ其年九月東國第一の大都として暫時御駐輦あらせられると云ふことで御東幸を仰せ出されたのであつた。

大久保利通の大阪遷都の議

明治元年正月江戸討伐の大詔の發せられた後、大久保利通が大阪遷都の議を上つた其趣意書を見ると、弊習打破を第一の目的とし、海外交通の便と富國強兵の利を第二として、それには大阪へ遷都するに如くはないと説いて居る。今左に其文を摘記する。

今日の如き大變態開闢以來未だ曾て聞かざる所なり。然るに尋常定格を以て豈是に應せらるべきや。今や一戦官軍の勝利となり、巨賊東走す。雖、巢穴鎮定に至らず、各國交際永續の法立たず、列藩離反の方向定まらず、人心恟々、百事紛紜として、復古の鴻業未其半に至らず。纒に其端を開きたるものと言ふ可し。然れば朝廷上に於て一時の勝利を恃み、永久治安の思をなされ候ては、則北條の跡に足利を生じ、前姦去て後姦來るの覆轍を踏まれ候は必

然たるべし。依つて深く皇圖を注目し、觸視する所の形跡に拘らず、廣く宇内の大勢を洞察し給ひ、數百年來一塊したる因循の腐臭を一新し、官武の別を放棄し、國內同心合體一天の主と申し奉るものは斯くまでに有り難きもの、下蒼生といへるものは斯くまでに頼もしきもの、上下一貫天下萬人の感動涕泣致し候程の御實行擧ぐる事、今日急務の最急なる可し。是までの通り、主上と申し奉るものは玉簾の内に在し、人間にかはらせ給ふ様に、纒に限りたる公卿方の外拜し奉る事の出來ぬ様なる御さまにては、民の父母たる天賦の御職掌には大に乖戻したる譯なれば、此の御根本道理適當の御職掌定りて、初めて内國事務の法起る可し。右の根本を推窮して、大變革せられるべきは遷都の典を擧げらるゝにある可し。如何となれば弊習といへるものは理にあらす勢にあり、勢は觸視する所の形跡に歸す可し。今其の形跡上の一二を論ぜんに、主上の在す處を雲上と云ひ、公卿方を雲上人と唱へ龍顏は拜し難きものと思ひ、玉體は寸地を踏み給はざるものと、餘りに推尊し奉りて、自ら分外に尊大高貴なるもの、様に思食させられ、終に上下隔絶して、其の形今日の弊習となりしものなり。敬上愛下は人倫の大綱にして論なき事ながら、過ぐれば君道を失はしむるの害ある可し。仁德帝の時を天下萬世稱讚し奉るは外ならず、即今外國に於ても、帝王從者一二を率いて國中を歩き、萬民を撫育するは、實に君道を行ふものと謂ふべし。然れば更始一新王政復古の今日に當り、本朝の聖時に則らせ外國の美政を厭するの大英斷を以て擧

げ給ふべきは遷都に在るべし。是を一新の機會として、易簡輕便を本にし、數種の大弊を抜き、民の父母たる天賦の君道を行せられ、命令一度下りて天下慄動する所の大基礎を立て、推及し給ふにあらざれば、皇威を海外に輝し、萬國に御對立あらせられ候事叶ふ可からず。

一、遷都の地は浪華に如くべからず。暫く行在を被定、治亂の體を一途に居る、大に爲すことあるべし。外國交際の道、富國強兵の衝、攻守の大權を取り、海陸軍を起す等の事に於て地形適當なるべし。尙其句々の論あるべければ贅せず。

右内國事務の大根本にて、今日寸刻も置くべからざる急務と奉存候。此の議行はれて内政の軸立ち、百目の基本始て擧るべし。若し眼前些少の故障を顧念し、他日に譲り給はゞ、行はるべきの機を失し、皇國の大事去るまふべし。仰ぎ願はくは、大活眼を以一斷して卒急御施行あらんことを干祈萬禱し奉り候 死罪。

正 月

大久保一藏

右上奏文は、其形式こそ大阪遷都論であるけれど、實質に於ては堂々たる立國經綸の眞髓を説いたのであることを識らねばならぬ。

東京遷都の主張

東京遷都の首唱者は大木喬任、江藤新平等であるが、それより前に前島密は大久保利通の大阪遷都論を駁して、江戸を帝都としなければならぬ所以を細密に開陳したと云ふことだ。東京遷都説の主張した所は、舊來の積弊打破と言ふ點に於て利通の議論と一致し、地形の勝に據るべしと云ふ點でも全く同一見解であつたが、東北の雄藩が未だ佐幕の志を棄てないので人心動搖の兆が著しいのと北方露領境界の問題等もあるので、國權統一の必要から東都は最も便利な地位であると云ふのであつた。殊に有力な議論と見られたのは、大阪の地は百貨輻輳の利便があつて商工業は自然に殷賑を極めるけれど、若し東都の地をその儘にさし置いたならば一時に衰頽を來して、東北の雄鎮も立どころに疲弊する虞がないと云はれぬ、三百年の繁榮が一朝に枯渴するのは容易からぬ事であるから、宜しく

帝都を此處に奠めて其繁榮を持続しなければならぬと云ふことであつた。果せるかな廟議は自然東京遷都の決行に傾き、其年七月十七日左の詔を發せられることゝなつた。

朕今萬機ヲ親裁シ億兆ヲ綏撫ス、江戸ハ東國第一之大鎮四方輻輳之地、宜シク親臨以テ其政ヲ視ルヘシ、因テ自今江戸ヲ稱シテ東京トセン、是朕ノ海内一家東西同視スル所以ナリ衆庶此意ヲ體セヨ

東京遷都の實現

斯くて其八月に初度の東京行幸が發表せられ、翌九月二十日御進發あらせられた。けれども京都市民の失望や公卿其他の反對などを慮つて、未だ公然と遷都を決せられただけではなく、東京へ行幸とのみで日ならず京都へ還幸あらせらるべき筈であつた。十月十三日東京へ御着、西城へ入御、乃ち令して西城を宮城として東京城と改め、登城を參内と稱すべきを命せられた。其歲十二月京都へ還幸あらせられたが、僅々二ヶ月餘で翌明治二年三月再び東

京行幸を仰出され、太政官をも東京へ移されて政治の中心は全く東京に遷ることゝなつた。で當初各府縣の順位は京都を第一とし、東京・大阪が之に次いで、依然京都を以て皇居の地とせられたのであつたが、明治四年に至つて東京を第一とし、京都・大阪が之に次ぐことゝなり、天皇の京都へ赴かせられるを行幸と稱し、東京に還御あらせられるを行幸とは云はないことに定まり、東京は自然に帝都と確定した。約り京都は皇居の地であるとしても名義上又形体上單に御所が現存するだけで、實際の皇居即ち政治の中心地としての宮城は早くも明治二年から東京に遷されたのである。之を冷靜に觀察すると、明治維新の東京遷都は、人心を新にする爲めに企てられた大阪遷都の議から再轉して、徳川氏三百年の都城を利用するに至つたものと云ふことが出来る。其大阪行幸から東京再度の行幸當時に於ける廟議の推移は、一面朝令暮改の譏を

免れることは出来ないけれど、京都を皇居と稱へ東京へは行幸と觸れ出して置きながら何時の間にもやら東京を眞の皇居に定めて了つたなどは如何に京都士民の反抗を避ける爲めであつたとは云ひながら、餘りに功妙な手段であつた。

江戸と京都

明治維新當時の京都と江戸の實質に就いて見るに、其廣表に於て又人口に於て江戸は京都の約三倍以上であつて、其繁榮の度や交通の便利なことから云はゞ京都は逆も江戸に比較すべくもない程劣つて居た殊に皇居其ものゝ地相其結構防備等が江戸城の雄大な組織から觀ると著しく貧弱であつたことは事實である。故に廟議が漸く遷都の急要なことを認めかけた際、丁度江戸城の開城と云ふ好機が到來したので、大阪遷都の主唱者や京都居据り論者、までも一齊に東京遷都に同意したのはさもあるべきことゝ思はれる。

若し其當時江戸城の開渡しが順序よく運ばないで市街戦でも起つて江戸城を初め市の繁榮地域が全部焼失したならば、假令徳川氏が大政を奉還したからとて東京遷都は行はれないで、大久保利通の意見通り大阪を帝都として東京には一の有力な地方廳が置かれたに過ぎなかつたかも知れぬ。

都市としての江戸

江戸は三百年間徳川氏の都として實際の政權を此處に集めた近代に於ける我國最善最美の都市であつて、又其の消費力に於て他の如何なる都市も之に及ばなかつたのだから、中古式の都市としては全く理想的のもので、殊に城内の結構は人力と財力とを盡し形勝の優と相俟つて當時我國民欽望崇敬の目標であつたほど其價値は偉大なものであつた。大阪遷都論者であつた大久保甲東までも直に東京遷都に同意したのも無理はない。然しながら

ら、其當時東京嘆美者が唱へたやうに東京は果して帝國の中央地であるかどうか、又其海面には大艦巨舶を容れる便があるだらうか、其防備は完全で市街は宏濶だと云ふが實際さうだらうか、斯う數へて見ると當時の東京遷都論者が其特長であると思つて居た地相や海面の關係さては市街の組織等も、吾人の都市觀を以て觀ると孰れも貧弱姑息のものたるを免れぬ唯大阪や京都に較べて多少優つた點があつたと云ふに過ぎない。若し當時廟堂の士に眞實帝都の建設を理解する者があつたなら、大阪又は京都の郊外に一大都市の計畫を企てたらうと思はれる。尤も當時の事情は餘り切迫して居て迎も都市建設を計畫するやうな暇のなかつたことを稽へると、江戸城利用の如き姑息手段も寛恕して遣らねばならぬ。

中橋氏の大阪遷都論

我國帝都の位置として淀河の流域が最も好適地であることは、古來既に定説があつて今更事新しく論ずるまでもないことであるが、我國の現状や今後の發展などを考へると一層切實に其感を深うする。明治三十二年頃當時の大阪商船會社長現時政友會の總務である中橋徳五郎氏が其著「大阪の經營」の中に大阪遷都論を唱へたのは吾人の同感に値する故左に其論旨を抜萃する。

遷都の事元より言ひ易からざるなり。惟ふに一國の帝都は其國の國是に違ひ、其領域の廣狹山海の形勢と隣邦領土の配置とに應じて之を定めざるべからず、或は力を内地に専らにするが爲めに其宜しきに從ひ、或は禍亂を戡定するが爲めに之を一方に遷すが如く、各其時の必要に適應すべくして、未だ必ずしも百年不動の帝都を肇造すべきものにあらず。我邦に於ても亦王政復古に際して、一旦帝都を關東に移したりと雖も、封建の歴史習慣相共に破壊し盡し中央集權の基礎確立し、進んで領土を海外に開拓し我商權を四表に伸張せんとするの今日に當て、關東や一方に僻在するは、東亞南洋に向つて國威を顯揚せん

欲する帝國の首都としては未だ以て其所を得たりといふ能はず。故に今の秋に當て、算あつて計を畫し都を大阪の地に移すは、豈時の宜しきに從ひ開國進取の國是を遂行するに關し、最も緊要なる問題と謂はざるを得んや。……(中略)……王政復古の時に當てや、東北の各藩幕府の脱兵と相結び以て王師に反抗し、月を閉して初めて之を鎮定することを得たりと雖も、天下の人心尙未だ全く一に歸せず、封建の習慣未だ打破し了らず、動もすれば軌ち不軌を圖るの徒を現さんとしたるが故に、遽に歴代の都を捨て、帝都を幕府政權の中心たりし江戸に遷し以て東北の人心を撫鎮し、爰に北方開拓防禦の途を啓き遂に天下の人心を新にしたるは、又其時の宜しきに適應したる者なり。今や封建の歴史習慣共に破壊し盡し中央集權の基礎確立し、不軌を圖るの輩其跡を絶ち、國勢は駸々として進み萬民各々事功を擧ぐるに急なり。然らば則ち維新の宏謀に基き開國進取の國是に據り、東亞南洋に向つて國威を顯揚するの秋に際しては、東京の地たる以て大船巨舶を容るべからず、横濱の地たる輸出港にして輸入港に非ず、是に於て單り大阪の地たる北西比利亞の鐵道貫通し東巴拿馬運河の開鑿其功を竣り、東亞南洋の各國と南北亞米利加各邦との間に介立して優に大太平洋上の商權を掌握するの勢を有するものなり。故に今の時に方り徐るに計を定めて帝都を大阪平原に遷すは、最も現今の急務なるべし。……

中橋氏の論旨は、現在及び今後東亞の形勢から打算して東京を偏僻の

地と見做し、むしろ大阪の平原を以て適當な中心地點と斷定したのであつた。斯の論旨に對しては恐らく何人も異議はあるまいと思はれる。然るに何故か同氏の斯の大論文が一つの空論として取扱はれ、今日まで一度も讀者の眞面目な批評を受け得ないで居る。遇々之を論評する者があつても、唯漠然たる否定説に過ぎなかつたので、殆んど傾聽する價值もなかつた。尤も中橋氏の意見は其大体に於て首肯すべきものであつたが、何故更に數理的に之を敷衍して社會から默殺されるのを防がなかつたかは一つの疑問で、遷都と云ふやうな大問題を社會に提供しながら默殺せられて其儘終るなどはあまりに熱誠と眞摯を欠いた態度と言はねばならぬ。併し中橋氏の以上の見識は已に二十年前に發表されたるもので、今日とは多少事情を異にする處があるけれど、其精神に至つては現在及び將來に亘り渝らない卓論であることを承認す

るに躊躇しない。吾人は更に一步を進めて斯の見識を敷衍し、其實現の緊急であることを論及して見たい。

九鬼男の京都遷都論

其後十四年を経て大正の當初、男爵九鬼隆一氏が御大禮奉祝會に於て提案した京都遷都計畫も、其當時多少社會の耳目を惹いたゞけで再び默殺されて了つたが、同氏の論旨は、大体に於て中橋氏の意見を踏襲したものであつた。曰く、

（前略）……第一に、維新に際し大久保公等が主として東京に遷都の議を立て、之を實行せらるゝに至りましたのは、人心を新にするの必要もあつたのでありませうけれども、其實は東北地方若くは北海道を初め北方の關係が東京遷都を一大必要としたのであります。……然るに帝都の位置の内地の關係に就きましては、今や云ふべきことはありませぬが、外に對する關係は實に時勢上大變遷をなしたのであります。例へば支那の事、朝鮮に關する事、又露國との親善益々厚きも、其極東に關係する事、歐洲列強の東洋に於ける事、殊に列強の支那に關する均勢の事等、數へれば幾多の關係が殆んど測知すべからざるものがあります。此等は皆西方の事に屬しますので、曾て關係の多大なりし内外、東北乃至北方

の事は殆んど全く關係がないことになつたのでございませぬ、隨つて曾て東京に帝都を遷された當時適當なりし理由は、今は殆んど消滅したと申しても失言ではないと信じます。同氏は更に今後交戦の場合を想像して、東京灣の防禦は非常に困難であるから皇居が其東京灣に臨むのは危険此上もないことである。然るに京都は國勢上からも此の危険を避ける爲めにも好適の地であると断定し、最後に帝都を京都に遷すに就いては東京に現存する公館その他の損害を一億七千萬圓と計上せられ、其他可なり詳細な問題まで考慮されたやうであるが、其等は現代都市の發展を眼中に置かない消極的な見地から出發したものでばかりで、此處に列擧するほどの價值あるものではなかつた。

淀河流域は帝都たるべき地

之を要するに、我淀河の流域たる畿内の平原は、結局我國帝都の建設せられねばならぬ運命を有する地である。凡そ一國文化の中心は、地理的に又經濟

的に最も利便の多い處であるべきで、對外的發展の關係に於て殊に其重要なるを感ずる。殊に現今のやうに内外交通の頻繁を増して内治外交・商事等凡て寸刻の速きを争ふ時期に於ては、其首都の地理的利便によつて招徠する利益がどれほどであるかは測り知ることが出来ない。淀河流域が古來帝都の地として選ばれたのは必ずしも偶然ではなかつた。唯明治維新の際東北鎮定の目的と江戸從來の繁榮と利便を踏襲する爲めに關東の地に帝都を遷されたけれど、其目的が達せられた以上は再び淀河流域の好適地に永遠的計畫の帝都を建設するのが順序でなくてはならぬと思ふ。

大陸遷都論

日露戰爭以來我國は大陸に相當の足場を得た、其後更に朝鮮全國を我版圖に併合した關係などから、我國の地理的中心は大に移動して來た。殊に大亞細亞主義者が唱へるやうに

我國が亞細亞大陸各邦の盟主として立つことを理想とするならば、本州の中央地點を帝都と定めることは、地理的に偏在して居るばかりでなく、其理想を實現するには不便利の甚だしいものがあらうと思ふ。大陸遷都論の動機は即ち斯の意味から出發するのである。之を世界政策の上から觀ると我國今後の國策としては到底現状維持を以て理想とすべきではなく、進んで亞細亞大陸の富源開發と其文化的施設の衝に當る要がある。故に其經營の利便の爲めには、帝都を大陸の適當な地に遷すことがあらゆる施設の根本であらねばならぬ。恰も明治維新の際に帝都が東京に遷されて然る後萬機一新の政治が行はれたやうに、大陸政策を實現するには大陸遷都を以て其根本とすべきである。云ふのである。吾人は必ずしも此大陸遷都論に反對する者ではない。若し我國策が大陸經營を以て凡ての國家的施設の根本とすることに一決

するならば、其實行力を緊張せしめる爲めだけにでも、帝都を大陸へ移すの緊急なるを感ずる。況んや其地理的利便國防上の關係、さては地震地帯を免れる等の點に於て大陸遷都が甚だ有利なことを認めるのだけれど我國現時の國策は未だ其處まで徹底的に大陸問題に没頭することの出来ない事情あるのをどうする譯にもゆかない。つゝめて云へば大陸遷都は我國將來の理想であつて、未だ其實現を期待する時期に達しないだけであるから、決して空論視すべき事柄ではない。問題の意義が重大で關係する方面の廣汎なことは恐らく我國現時のあらゆる問題を超越した程度のものであつて其研究も随つて甚だ難解たるを免れぬ。今此處では其難解な大問題を十分解決しやうと云ふのではないけれど、帝都の地理的利便と國防上の關係及び地震地帯を免れ得る等安全確保の三點から一通りの觀察を遂げて、大陸遷都論々據の半面に

に觸れて置きたい。

大陸の地理的利便

大陸と云つたからとて支那帝國や露領亞細亞の領地内へ勝手に我帝都を遷し得るものでもないから、現今の處では自然と其位置も限られて居る譯で、若し朝鮮半島又は南滿鐵道附屬地の内に於て最も適當な地を選ぶとすれば、平壤の附近或は奉天城の外廓地帯などは其候補地たるを失はぬであらう。奉天の地は北は露領の要路に當り南は京奉線を以て支那本部の各地に通じ、遼東半島と朝鮮半島の交通の衝點である等、亞細亞大陸東北四分の一を支配するには最も好適の地であるけれど、現在滿鐵附屬地の地積は僅に百八十万坪に過ぎないので到底大都市建設の目的を達し得ないことを遺憾とする。殊に支那東三省の督軍がそれ／＼儼然として南滿一帶の支配權を把持して居る現状では、奉天に帝都を建設するなど

は全く無謀の譏を免れ得ぬけれども若し我國が東亞の盟主として大亞細亞聯盟の組織を畫策するやうな時機が來たならば東三省督軍の制度や滿鐵附屬地の境界線のやうなものは必ずしも之を支持するの必要もないので、其等宗主權干與の問題に至つては日支兩國の完全な外交的一致の態度によつて圓滿に諒解せらるべきは云ふまでもないことである。若し大陸の盟主として各種の畫策を實行する時に帝都が今のまゝ東京灣頭の平原に偏在して居らうものなら事毎に時機を失して敏活な離合集散の政策を實現することは困難であらう、で一步を進めて畿内の平原に遷都するとしても、又更に進んで筑前の平原に移るとしても大陸畫策に不便なことは五十歩百歩で本州と朝鮮半島の間に介在する對馬海峽は其距離僅に百二十哩に過ぎないけれど、それが通信や交通に與へる障礙の甚大なものあるを知らねばならぬ。斯の

意味に於て大陸政策の策源地は少くとも朝鮮半島の中心にあるを要し、更に進んでは南滿の中心地たるを必要とするのである。

國防上の關係

一九〇七年獨逸のルドルフ・マルチン博士は飛行船の將來と言ふ論文を發表して、空中艦隊の恐るべき偉力の發現に對する國防策の根本を論じて軍事當局者に大警告を與へた。其後飛行船は博士豫想の通りに進歩したけれど未だ其偉力を發揮するまでには達しない、其代りに飛行機が博士の豫想した以上に發達して這般大戰亂の大要素となり、潜航艇は全く考へ及ばなかつたほどの効果を示した。マルチン博士の論文の一節に「日本の如き狭小なる島帝國にして人口の集積すること甚だしき處に於て一旦戰端を開き敵飛行船の爲めに各要港の出口に無數の水雷を布設さるゝ時は彼は戦はずして降服するの外途なからん。乍併恰憫なる彼は必ずしも將來

永久に斯る危険な状態に満足せざるべし」と云ふて居る。マルチン博士は十年前既に国防上島帝國の危険なことを豫想したのであつた。我島帝國は古來地理的に安全な国防組織を保有して來たのであるが今では科學の進歩によつて海上に孤在することは到底國防の安全を期するを許さなくなつたのである。

島帝國の防禦難

島帝國は絶大な海軍力を有して敵國海軍を絶對的に凌駕するのでなかつたならば交戦中各方面の航路を絶たれたり要港を封鎖されたりして竟には國內物資の供給不能を免れ得ぬであらう。今次の大戦亂に於て英國の海軍力が獨逸のそれと等しいか又はそれ以下であつたなら英國は交戦六ヶ月を維持することさへ困難であつたらう。併し幸に聯合國の艦隊は絶對的優勢を以て獨逸の艦隊を壓倒して居るから、物資の供給に於て聯合國は僅

に其危険を免れたが、尙潜航艇の爲めに散々悩まされて居るのを見る。吾人は一層海面防禦の困難を痛感する。さりとて吾人は我島帝國の海面防禦を不可能であると叫ぶ程の悲觀論者ではなく、又大陸へ帝都を遷して島本國を見棄てるやうなことを考へて居る者でもない。併し大陸經營の畫策と共に其策源地防禦の絶對的安全を期するのは吾人の當然要求する所で、斯の意味に於て帝國版圖のあらゆる部分の防禦を完備する方針の中でも、帝都所在の方面に最も重きを置くの要がある。斯の目的の爲めにも大陸の一角に帝都を遷すことは或は策の得たものではなからうかと思ふ。

地震地帯と大都市

我國は朝鮮を除く外全領土殆んど地震地帯で、殊に東海道畿内・南海道等太平洋に面する箇所は、其頻度の多いのと震源の近いことに於て世界に比類のない程恐るべき

地質的形態を曝露して居る。此處には世界地震地帯分布の状況を説くことなどは止めて、我國では古來震災が幾回となく繰り返し、吾人の祖先を苦めたことから其災害が將來も尙週期的に我國民を迫害すること、に想到して、どうしたら其危害から免れられるかの問題に觸れて見たい。今後我國の大都市が地震の襲來によつて受ける損害は、逆も歴史上に見える地震被害のやうな輕易なものではないことは十分に考慮せねばならぬ點で、現今の大都市は中古式の城廓本位時代を過ぎて商工經濟を以て中心とするやうになつたので、科學的設備の適用も益々廣く建築は宏大に交通機關は整備して人口の集中漸く激甚となつて都市内部の複雑なことは到底中古の單純な都市などの比肩すべくもないのである。で若し今日の文明都市が一朝震災によつて破壊されるやうなことがあつたら、其損害の程度に大小の差こそあれ其受ける

苦痛の甚大なことは、逆も昔日の都市と談を同じうし得るものでない。試に安政二年江戸大地震ほどの震災が今日襲來したとすれば、現時の東京や大阪はどんな慘害を蒙るか想像するだけでも、戦慄を禁じ得ない。而して更に其回復の困難に考へ到ると、我國には所詮文明的大都市の建設は成し遂げ得られないのではあるまいかと案じられる。

震災を免れる安全確保

地震に對する完全防備の研究は現代の科學に於て稍其端緒を得たが、若し徹底的に之を避けやうとするには大陸に遷つて此地帯から脱するを萬全の策とする。亞細亞大陸も其南部にはヒマラヤ山脈を中心とする地震地帯に屬する部分があるけれど、滿州及び朝鮮では殆んど全く免れ得られるのだから、地震の破壊力から免れるのを目的とするならば、將來は大陸遷都より外に採るべき途はないと云ふことに歸着する。即ち我國が將來

大陸統一の使命を果す爲めに其地理的利便を必要とし、又國防上の關係を考慮し、更に地震によつて破壊される危懼を免れやうとするには、今後の大都市殊に帝都は是非とも大陸の好適地を擇ばねばならぬと云ふ結論に到達する。

大陸遷都論に對する私見

如上の意味に於て吾人は大陸遷都の必ずしも空言放論でないことを裏書する。尤も帝都は一度建設したらもう遷すことは出来ないと云ふのが至當であるかどうかを先決問題として、然る後大陸遷都論の適否を決するのを順序とする。吾人の意見では帝都は其國の版圖の變更、交通路の變遷及び對外政策の推移等によつて漸次其位地を變更するを策の得たものとするのであるから、斯趣意に於て大陸遷都に賛同するけれど、大正庶政革新の今日では時期尙早と云ふ意味で反對せざるを得ない。それよ

りはもつと現時の状態に適應した畿内遷都に就いて考慮するの緊急なるを感ずる。

結論一

既に述べたやうに、東京遷都は明治維新庶政革新の際には或程度まで必要なことであつた。即ち三百年の因襲を打破して人心を新にする爲めと、又一つには東北佐幕熱の殘黨を鎮撫する爲めに、舊江戸城を利用するのが最も得策であつたことは誰しも認めるところ、殊に當時極北に露領境界問題や北海道開拓の事業が横つて居たので、帝都が餘り遠くては其交渉など萬事不便の少からぬ事情があつたのも事實である。又更に東京は徳川氏の大政奉還や江戸城開放の爲めに其繁榮を一朝に枯渴してあたり雄大な都市を急ち荒廢せしめるの虞のあるを察し、むしろ江戸城を皇居として庶政の中心を此處に遷し、以て其繁榮を維持しやうとした事情も含まれて居たと云

ふことだ。此等の事情を綜合して見ると、明治維新の東京遷都は明治天皇御新政の最大根源で、あらゆる施設も亦斯の大英斷の御趣意から湧發したものと拜察せざるを得ない。併し今日ではもう明治中興の鴻業も一段落を告げ日清・日露兩大戰の後を承けて國運の隆昌なこと迎も昔日の比でなく、海外列強との關係も亦複雑になり、内外の形勢は更に何等か一大畫策を企圖せずには居られぬ時機に到達した。之をも少し具体的に云へば明治維新の際に遷都を斷行せられたと同様の大英斷が此際我國策の確立斷行と同時に大正遷都の企圖に適用せられねばならぬので、或は遷都を無意義とし或は現代の都市では其實行は不可能であるなど、説く者があるとするれば、それは唯漠然たる直覺感に過ぎないので少しも根據ある意見ではないのだから敢て其妄を辯ずる必要を見出さぬ。吾人は現在及び將來の大正聖代庶政大刷新の急務

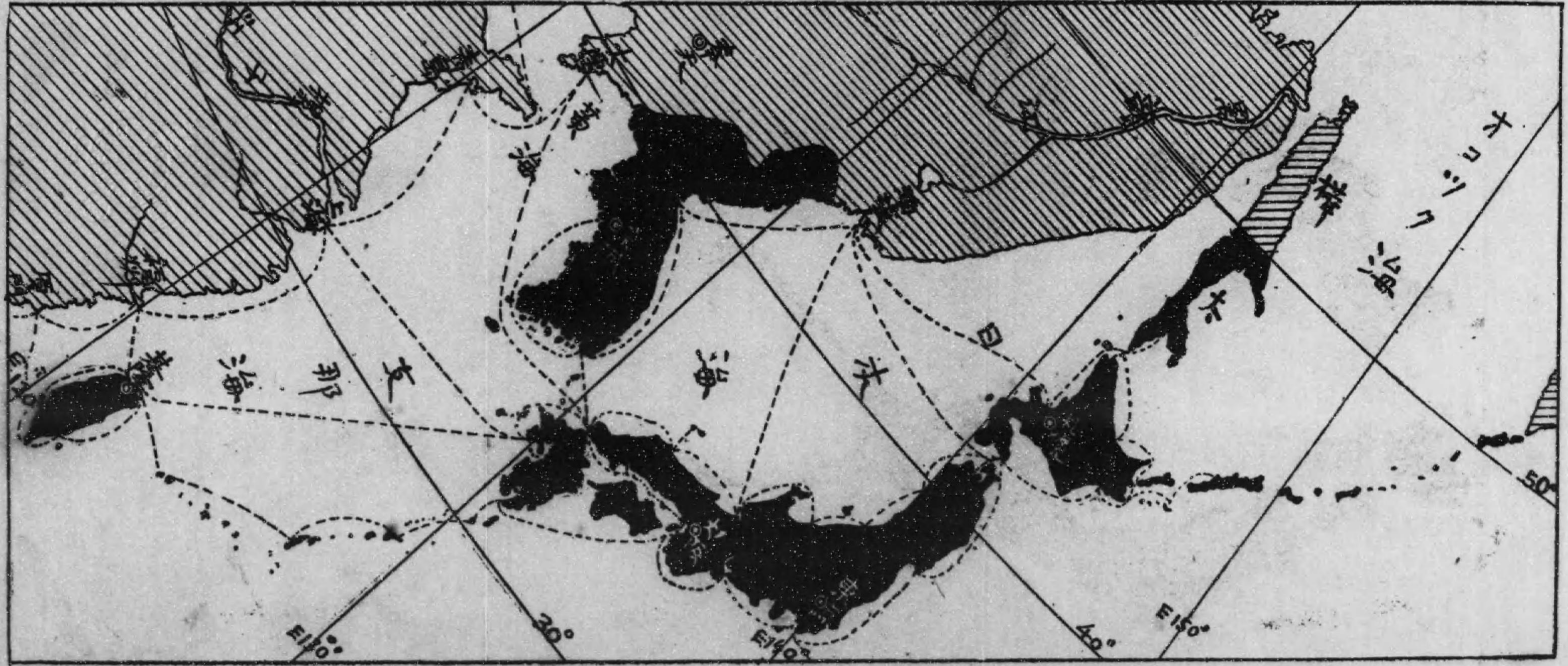
として京畿地方に政治の中心たる帝都を遷すことの如何に緊急事であるかを此處に少し立入つて説明して見たい。

結論二

現代では政治經濟活動の中心は現代科學を最も敏活に利用して交通と通信の迅速を期することを最大要義とする。即ち一國の帝都は其科學的設備と地理的利便とを併有して政治經濟施設の中心たるを期せねばならぬ。斯の意味に於て現在我帝都たる東京市が果して其地理的利便を有するかどうかを考へて見ると其位地が聊か東部に偏在して居るので事毎に不利不便を感ぜざるを得ない。今東京から本州鐵道幹線兩終點驛への距離(鐵道線路に依る)を見ると、

下之關 (西南端)……東京間 七百五哩七分
青 森 (東北端)……東京間 四百五十六哩九分

大日本帝國地圖



で、本州の凡ての事情を均一と假定しても尙甚だしく東部に偏して居るもので、若し實際の産業状態や人口密度さては港灣の關係等を積算したならば、本州だけでも東京の位置は非常に偏陬であると云ふことが出来る。況して亞細亞大陸の重要關門地點たる浦蘆斯德に對する本邦の支關とも云ふべき敦賀港へは實に三百十四哩七分の長距離であり更に今後西南方面の朝鮮・支那・南洋・印度等一層交通の頻度を増すべき機運に際會して居ながら其對外施設の中心地たる神戸や大阪とは陸路三百五十六哩を距て、十時間以上の旅程を有することなどを考へると其地理的不便が我國の一般貿易から惹いては産業經濟に及ぼす損害の測り知るべからざるものあるを識らねばならぬ。

結論三

滿韓・支那・南洋各方面との交通關係は姑く措いて、我内地開發の利害だけから考へても、我國政治經濟の中心地點

は大阪灣に臨む攝河の平原に求めるより外に適當の地は見出し得ない筈である。攝河の平原は其中央を淀河が貫流して、深く瀬戸内海が灣入して居るなど實に天然の形勝で大都市を建設するに適當なばかりでなく、古來帝都として又經濟の中心地として久しく全國を支配し二千年間未だ一度も衰頹の事實を貽さなかつた。明治維新の際大久保公が大阪を以て今後の文明開發に好適の中心地として其遷都論を唱へたのも、全く其地理的利便と歴史的隆運とを看取したからであらう。今大阪と内國各地との地理的關係を見ると、

大 阪……基隆間（臺灣の北端） 海路約千哩

大 阪……札幌間（北海道の中心地） 陸路約千哩

で、北海道及び樺太經營の爲めに其中心地を假に札幌と見做し、基隆又は臺北を臺灣經營の策源地と見做せば、偶然にも其兩策源地が大阪か

ら殆んど同距離である事を發見する。若し本州東部の産業中心地を東京とし西部の工業地帯を筑前の平原とすれば、之亦大阪からの海陸通路は殆んど同哩程で、又東北の中心點を仙臺とし九州南部の産業中心地を鹿兒島市とすれば、各其距離が相等しいのも偶然である。

大 阪……東京間 三百五十六哩一分

大 阪……下之關間 三百四十九哩六分

大 阪……筑前八幡間 三百六十三哩三分 (關門間の距離を除く)

大 阪……鹿兒島間 五百八十八哩四分

大 阪……仙臺間 五百七十三哩三分 (東京縣と上野驛の距離を除く)

更に大阪から日本海方面の關門たる敦賀港への距離は、東京敦賀間三百十四哩七分に對し正に其三分の一(百〇二哩)で、將來琵琶湖を利用する運河系統によつて水路の連絡が出来る時期のあり得べきことなど

を想像したならば、其日本海面連絡に於ても大阪は實に本邦屈指の好適地であると首肯せられるであらう。

結論四

我國産業將來の趨勢を考へると農業の開拓は最も重大であるけれど、それよりも更に製造工業の興隆を以て國家の大目的としなければならぬ。其各種製造工業が原料供給の關係や動力の配給等に支配されるのは勿論のこと、其等の關係から見て關東・關西何れも一概に其優劣を論すべきではないが、攝河泉の平原及び山陽道の沿岸や北九州一帶の平原は、瀬戸内海と云ふ天然の大水路を控へて居るので、交通運輸の利便に富めること到底關東平原の及ぶところではない。殊に其對外航路の發着に適するのと現に關西・九州方面の生産力が雄大な事實に鑑み、更に原料や燃料の關係から現在及び將來に亘つて金屬工業や纖維工業が主として關西の地に集中されるの

を見たならば、今後の経済的施設は、どうしても攝河泉の平原を其策源地としなければならぬ事由が解せやう。或は大阪が経済の中心で東京が政治の中心であつたからとて何の不都合もあるまいと云ふ人もあらうかなれど、若し出来得るならば政治の中心と経済の中心とは相接近せしめることが最も望ましいのみならず、凡ゆる對内施設や交通の中心などが大阪の平原にあるものとして見れば政治の中心だけを偏陬な東京に置くことの不利益なのは云はずとも明かである。

結論五

現時の對外關係から之を觀又將來の滿韓南洋支那方面の畫策などから稽へても、我帝都が現在の東京灣頭から南進して古來帝都地域と認められて居た攝河泉の平原に遷ることの合理的な事由は、寧ろ對内關係以上であることを識らねばならぬ。東京は都市として未だ海面上の支關を有しないので、海外との連絡は陸路

二十哩を距てた横濱港を通じて纔に之を維持するに過ぎない。伯林巴里等歐大陸の帝都が海岸から遠い内地に存在するのに比べたら何等の不都合もないやうに思はれるが、海面連絡の利便を有し得る國柄でありながら、其交通連絡を有さないのは甚だ拙策と云はざるを得ない。若し東京を將來永遠の帝都とするのなら一刻も早く東京大築港を企て、海面上の大支關を造る必要がある。縦しまた東京を帝都としなむとしても關東産業經濟の中心地として築港計畫の緊急問題であることは云ふまでもない。之に反して大阪は内地各方面の交通上地理的中心地であると同時に對外關係に於ても其交通の利便は東京に優ること數段であるから、將來帝都を此地に遷すの合理的なことは重ねて囑々するまでもない。斯の趣意は前にも述べたやうに明治元年大久保公に依つて唱へられ、次いで明治三十二年中橋徳五郎氏に提唱せられ

更に大正四年九鬼隆一男によつて叫ばれた。吾人が今又其趣意を繰り返す所以は現代都市の趨勢から推論して帝都の計畫を最も合理的に企圖し、其建設を最もよく現代に適合せしめたいからである。現代の都市は單に政權の中心であると云ふだけでは發達し得るものでなく、其經濟的活動力の増進に依つて初めて科學的に完備した都市を現出し得るのである。故に我國の帝都を新に建設し現代の文化に副ふものとするのには、どうしても産業經濟の樞軸となるべき利便を有する地を擇ばねばならぬ。官權の力で宮城や官衙ばかりを建設したからとて、到底現代の文化に副ふほどの都市を實現せしめるの六ヶ敷いことは、近時世界各国都市膨張の趨勢を見ても十分理解し得られる。

結論六

次に問題となるのは、現在の帝都が遷都によつて受ける損害の程度である。之に就いては、其計算を如何なる方法

でするか、直接の程度と間接の程度とはどんな方法で見分けるかなど、の複雑な關係があるので、一概に之を論ずることは出来ないけれど、現に東京が帝都であるが爲めに其繁榮を維持しつゝある分子が非常に薄くなつて來たのは事實で、徳川時代の江戸が幕府及び諸大名の消費力によつて其繁榮を維持して來たやうな幼稚の時代は既に過ぎ去つて、今では商工業の生産力によつて漸次其繁榮を促進しつゝあることは各種の統計で之を識ることが出来る。國庫の支出や皇族華族其他富豪の消費力は可なり大なるものであるが、一般の生産力から生ずる富の分量が更に其金額に數倍することは明かな事實で、我國東部一帯の貨物集散地として旅客が集中するとすれば、東京繁榮の基礎は單なる遷都によつて破壊せられるものではない。であるから其損害の如きも之を大局から觀れば極めて輕微のものとするを至當とする。又公館な

ども不用になるものは眞の少数で、それとても亦流用の途もあらうし市區改正や其他の改良事業は未だ其緒に就いて居ないのだから却て適當な餘裕を生ずるの利益があるかも知れぬと思ふ。若し東京を將來永遠の帝都として置くものなら現時の状態では餘りに亂雜で不秩序でそれに殆んど發展の餘地がないので改良計畫を立てることさへ不可能の感がある。然るに若し之を一般商工の都市として取扱ふことになれば、其改良計畫なども餘程利便が得られるであらう。之に反して大阪の郊外地帯に新帝都を建設することは、宛ら白紙に描くやうなもので其利便と自由は云ふまでもないことである。

結論七

吾人の理想とする大阪灣頭の新帝都と云ふのは、現時の大阪市街の東方で飯盛・生駒・草香の山麓を東の境とし、南は大阪軌道線路の附邊に迫り、北は寢屋川沿岸に沿ひ、西は現時の市街

に接する處まで、其廣袤約十平方哩を以て之に充て、此處に理想的の文明都市を建設し、舊市街の改良された大街路に連絡せしめることを要件とする。之を交通の上から、衛生設備の點に鑑み、都市建築の整備・街衢の美觀等あらゆる現代文化の精華を實現するに努力するので、其建設工費の問題に至つては吾人はさまで之を困難なものとは思つて居ない。歐米の大都市が都市計畫に費したあらゆる努力と其効果から打算して、新設市街敷地の買收價格と其買收後の騰貴價格とに莫大な差額の生ずるを豫定することが出来るから、公共的設備である街路や上水、下水並に遊園其他一般公館の築造などは、殆んど之を其差額によつて支辨し得るものと観ることが出来る。

大阪遷都の概論は之で其大体を述べ盡した積りであるが、新都の計畫と東京市今後の改良計畫とは、單純な理論を離れて實際的に至大至難

の問題として残されて居る。斯の兩問題はそれ／＼非常に複雑で弾力性に富み、其研究には無限の餘地が與へられる。吾人は更に世の先覺者と共に斯の問題の解決に努め以て我國將來の發展を促進せねばならぬのである。(大正七年八月稿)

都市住宅の建設に就いて

都市住宅の缺乏は世界の大勢——歐米諸都市の住宅問題——我國都市の住宅問題——應急策としての住宅經營——最も合理的な應急策——建築組合の組織——建築組合の經營——住宅經營者の特權——英國の住宅法——獨逸の建築組合保護——我國住宅經營者に與へらるべき特權——住宅經營に對する監督と制限——經濟方面の制限——技術方面の監督——結論一——結論二

都市住宅の缺乏は世界の大勢

都市の住宅缺乏が主として都市の大發展に起因するのは云ふまでもないことで、既に數次論議した通り現代都市發展の徑路から打算してもまた我國の大都市が年々人口の大増加を示す事實に稽へても、都市に於ける住宅が漸次缺乏しやうとする傾向は蓋し免れ難い運命であること云はねばならぬ。斯うなるのは、住宅建設のやうな放資上最も困難で且

最も甚だしい固定性を有つた事業を自然の儘に放棄して置いたからで、其建設が人口の増加に伴はなかつたことは事新しく説明するまでもないのである。歐米各國では今から十年ほど前に住宅飢饉の極に陥つたので、各都市は其都市計畫事業と共に市營又は公許の建築組合によつて盛に之を増設して來たことは、少し歐米都市の事情に通ずる者の識るところである。

歐米諸都市の住宅問題

英國では、一八九〇年に發布された勞働階級住宅法並に一九一〇年の發布に係る都市計畫法及び住宅法によつて各都市は盛に市營住宅を建設して來たけれども、尙常に住宅缺乏の聲を斷たなかつたのは著しい事實で、英國のやうに鋭意都市住宅の公營を敢行して居ながら尙且其缺乏を慰へられた理由は、其半面に家屋の衛生状態改善を企圖して完全な効果を擧げ

やうとしたが爲めではなかつたらうかと思はれる。で、住宅缺乏の聲の間に都市の衛生状態が著しく向上して田園都市と相俟つて一般勞働者の健康増進に與つて力のあつたのは事實である。都市住宅の公營を敢行した結果、個人の住宅經營が漸次其數を減じ從來主として其供給者であつたものが一變して其經營を鈍らすやうになつたのも亦當然である。茲に於て所謂田園都市や郊外住宅地が經營せられたのは之に對する緩和策であつたので、それが更に一步を進めて向上生活の手段としては公衆衛生の最良策として各方面の資本家によつて實行せられるやうになつたことは、近代の美舉として稱賛されて居るけれども、而も尙都市住宅缺乏の大勢を挽回するに足らなかつたのは事實である。獨逸や亞米利加の新進都市では、大膽な都市計畫を立案して住宅地區を制定し、其建設を容易ならしめると同時に、諸施設を完全にして公衆

衛生を向上せしめ、生活上の安寧と利便とを圖り、且公益団体たる建築組合を奨励後援して其地區に住宅の建設を促したので相應の家屋が低廉な賃料で貸される場合が甚だ多くなつたと云ふことだ。併し住宅の經營は單に一時の需要を充たしたゞけで満足する譯にはゆかないのであつて、將來永遠に亘つて其住居者の健康と安寧とを保障し、彼等をして生活の平和と愉快を十分に享有させることを必要とする。斯の意味に於て歐米各國の都市は着々其實績を擧げて來たのであるが、焦眉の急を救ふと云ふ點では未だ常に多少の遺憾を感ぜざるを得なかつたのである。

我國諸都市の住宅問題

然らば我國の現状はどうかと云ふのに、これまで都市住宅の建設をそれほど重大な意義あることゝは考へて居なかつたので、現時の甚だしい其缺乏は云はず

とも、永遠的畫策などあらう筈なく、殆んど何等の施設らしいものも見なかつたが、我大阪市では近時少數の應急的小住宅を建設して下級吏員や公傭人夫の一部に貸與して居るけれど、夫れは到底九牛の一毛にも及ばぬやうな始末である。昨年來内務省内に設置された救濟事業調査會で本年の初めに小住宅公營の急要を議了してから、内相は各大都市に向つて直に其意味を敷衍したことは時機に投じた考案として大に稱賛に値したけれど、唯訓示を以て其經營を懲慝するやうな冷淡な態度では逆も此喫緊な活問題の解決が出来やうとは思はれぬ。併し最近内務省が低利資金六百萬圓を各大都市に分貸して住宅の市營を促したことは或は多少問題を眞面目に解決させる端緒となり得るかも知れぬ。唯我國現今の市理事者に果して斯の機會を利用して眞劍な斯の奮闘をする勇氣があるかどうかが危まれる。

應急策としての住宅經營

都市住宅の缺乏は近代の世界的傾向で我國にも波及して來たが、その現象は近時一層著しくなつたので各大都市とも市民を窘迫することますます急なるものがあるのだから、都市政策の根本計畫よりも寧ろ窮乏を救ふべき應急策の緊要なことを痛感する。若し英國などのやうに社會政策の一方方法として都市住宅の建設が國法で援護されて居る所であると、如何に住宅缺乏の急迫を懇へられても問題は極めて單純なもので、公債募集によつて直に其補給に着手することが出来るのだけれど、我國では、從來住宅建設と云ふことは一種の物數奇者又は金貸業者などの手に委されて居て、動ともすると借家人との間に面白からぬ風説が傳はつたりして寔に紳士らしくない仕事のやうに思はれて來たのだから今日のやうにその缺乏が倍々甚だしくなつたからとて、誰一人率先し

て直接救済に努力しやうと云ふ者のないのも無理はない。内務省では都市理事者をして之を解決させやうと云ふ意向であるらしいが、別に之を援護する國法があるではなく、また市理事者は日々の經常事務に忙殺されて居るのだから、實際その効果を擧げることがどれほど困難であるかと思はれる。それに各都市では未だその都市計畫の大体案さへ出來て居ないのだから、其住宅地區たげを定めたり改良住宅の設計や其財政案を作ることなどが、さう急速に決定される筈はない。で市理事者が此際住宅の建設に熱中しやうにも何等據るべき規準もなく、方針もなければ特殊な後援もないのだから、結局市有地の比較的不用らしい場所に吏員や職工人夫の公舎でも少しづつ建設するより外に方法はあるまい。若し餘り應急策ばかりに熱中して、將來重要地點となるべき市有地が現在空いて居るからとて其處に細民住宅などを建設す

るやうなことがあつては、それこそ市の將來の爲めに由々しい一大事である。さればとて場末の貧民窟を一掃して其場所に適當な市營長家を建設することも今急には出來得べくもない。要するに内務省が如何に督促したからとて現時の市理事者には市民の住宅飢饉を救ふべき何等適當な方法は見出せない。又市民も市理事者の施設ばかりをたよりにして居ては到底その渴を醫することは出來ぬ。それだからとて吾人は都市理事者の無能呼ばゝりをする人に加擔する者ではなく、むしろそれ等の人達の不明を戒めたいと思ふのである。

最も合理的な應急策

現時應急策としての住宅建設の如何に取計らうべきかと云ふ問題は自然都市計畫の永遠策と相關聯するのだから如何に應急策に熱中したからとてそれが永遠的計畫の妨げとならない程度で運ばねばならぬ。斯の點に於て各都市

の理事者は甚だしい苦痛を感じて居ることだらうと思はれる。市營住宅は其根本趣旨として市民の健康と安寧を期するのであるから、唯一時の缺乏を救ふばかりが目的ではなく、同時に經濟的に徹底せねばならぬ。それ故假令低利資金の二百萬圓や三百萬圓を得たからとて之を以て直に遺憾なき実績が擧げ得られるものと考へるのは間違ひである。然らば現時の應急策はどうすれば可いかと云ふに、吾人の見解を以てすれば、先づ公益團體としての建築組合を組織し、大都市の近郊で將來其都市計畫の大體方針に妨げのない地區を撰定し、耕地整理法施行の權能によつて幾つかの大田園都市を建設するのが最良策であらうと考へる。都市計畫法第五條は斯う云ふ團體に其計畫事業の一部を實施せしめ得ることを認めて居るから、其精神に則つて組合を組織し急速に住宅を建設したならば、都市社會政策解決の一助となると同時に

應急策としても最も有力なものであらう。

建築組合の組織

建築組合の組織は之を株式會社又は財團法人とし、其資金は各都市の情況によつて一様にする譯にはゆかぬが、東京市や大阪市では少くとも一千萬圓以上を必要とする。其資金は半ば公共義捐の意味を以て富豪や有志者から蒐め、年利四分を最高程度と制限し、建設中は凡て無配當で専ら將來の發展を目的とすることにして、其經營を進める、而して經營者には徳望の高い人物を選んで、熟練した識見ある技術家の手腕と都市内外の公的及私的援助によつて其遂行を期せねばならぬ。固より資金の募集は可なり困難であるかも知れぬが、その幾分は政府の低利資金を利用し、公共團體にも多少負擔させて、其都市有力者の参加を慫慂したら其成立はさまざまで困難であらうとも思はれぬ。吾人は現時のやうな社會生活不安の聲

の甚だしい際に、その解決の一方法たる住宅建設の事業に對して富豪や有志の同情を得ることは決して難事ではなからうと信ずる。

建築組合の經營

建築組合の經營にも永遠策と應急法の兩様がある。で其應急手段も矢張り永遠策と相背馳しないやうにして宅地分割と下水並に給水、交通等の骨子は苟且に之を取扱ふべきではない。其選定すべき地域は現在都市の郊外で交通機關の利便によつて市の中心地と連絡のあることを必要條件とし、若し其地域が現在市内交通機關の終點から十町以上の距離に在るならば、其交通線路を延長させる要がある。尤も地勢の關係などによつて一様に之を論ずることは出来ないが、一地域は凡そ十萬坪を程度とし、道路遊園地その他の公共用地積約三割を除いた殘餘の七萬坪を千箇の宅地に分割する。建築組合では此宅地を甲乙丙の三級に分類して、差し當り丙級

の宅地に一戸拾坪内外の小住宅を急速に建設し、少くとも一ケ年以内に五百戸の丙級住宅を完成してそれ／＼相當な家賃で一般に貸與せねばならぬ。次に甲乙兩級の宅地は地上權附で貸與して個人又は借家經營者に建設させ、各戸坪數及び家賃等に制限を加へ一定の年月内にそれを完成させることゝしたら、田園市街も比較的短時日に實現することが出来る。以上は唯一箇の標準單位のものを記述しただけで、其大小や家屋の程度都市の状況及び各方面の事情等によつて取捨加減すべきは云ふまでもなく、又都市の地積が非常に廣い場合には、其周邊に何箇所も選定して其都市内外の事情に適合せしめるやう畫策することが肝要である。

住宅經營者の特權

都市住宅を最も組織的に又社會の需要に應じて適當に供給しやうとするには、公益を中心と

して組織された建築組合の經營に據るを第一策とせねばならぬ。若し都市の自治組織が圓滿に運んで居るならば、公共團體自身が住宅建設を經營するのも亦一策である。英國の都市では住宅を公共團體が直接經營して居るが、獨逸の都市では建築組合に之を經營させて來た。で今此處にはその優劣批評を避けて、其何れもが住宅經營者として有する特權に就いて少し述べて置きたい。

都市住宅を經營して普く市民に適當な住居を得させることは、都市の生活狀態を向上して市民生活の安定を計る第一歩であるから、其經營を組織的に且順序よく運ばせる爲めには國家も亦一般社會もあらゆる事を犠牲にして、其經營に便宜を與へ特權を行使させて然るべき筈である。

英國の住宅法

一八九〇年の英國住宅法は正にその精神を以て編成されたるもので其大要を摘記すると、

一、現在又は今後建設すべき労働階級住宅經營の爲めには、地方官憲は其地方官憲の地域内外に亘り其經營に適應すべき土地家屋及び借家を買収することを得、若し必要の場合には強制的に之を收用することを得。

二、上述の如く買収したる土地は、労働階級住宅の經營にのみ使用する目的にて、他人に賣渡し又は交換することを得。

三、公共団体事業債委員は、労働階級住宅の經營又は改良の目的の爲めには、資金を左の企業者に貸與するの權能を有す。

(イ)一般労働階級住宅を經營せんとする會社又は其使用労働者の住宅を經營せんとするものに。

(ロ)土地所有者に。

(ハ)五十年より少からざる期間の地上權所有者に。

四、若し住宅經營が個人又は會社に於て實行せられざる場合は、公共団体は自ら之を企て、

(イ)労働階級住宅を建設し。

(ロ)現存の住宅を改造又は増築して其目的に適應せしめ。

(ハ)必要に應じ一般住宅の完備を計る。

若し七年間の成績により此等の住宅の不必要を認むるか、又は經濟上不利益なる場合は之を賣却することを得。

英國は社會改良政策として先づ都市住宅問題の緊急なるを認め、一八九〇年に以上の特權を其經營者に附與した。それ以來斯の特權によつて英國の諸都市は可なり大膽に住宅を公營して、甚だ良好な實績を收めたことは既に述べた通りである。

獨逸の建築組合保護

獨逸の都市住宅經營は主として建築組合の仕事に屬して居るので、市はその組合に對して極力利便を計り、二三の都市では其利益の四朱に達するまで之を補償したのみならず、獨逸の諸都市が都市計畫の大局案によつて逸早く住宅

地帯を定め其住宅經營の永遠策を立てたことは、都市住宅問題解決に少からぬ利益を與へた。

我國住宅經營者に與へらるべき特權

然らば我國に於ては、今後住宅經營者に如何なる特權を與へたならば其成績を擧げるに便利であるかと云ふに、失張り其第一は住宅敷地の買収を強制し得ることであらう。今や我國の都市は内外ともに著しく發展して、地價の暴騰もさることながら事實に於て其買収は殆んど不可能とせられて居る。一つは都市に於ける土地課税の方法を誤つて居る爲めに土地投機熱が益旺盛になつて、眞實の土地利用者は常に彼等に壓迫されて其目的を達するに困難を感じて居るの常態である。若し住宅經營の目的ならば土地收用が出來ると云ふことになつて、投機者輩の射倖心を或程度まで冷却させ得られるものなら、實に一

舉兩得の方法である。次に建設後四五年間家屋税免除の特典を與へること、若しそれでも尙經營上利潤を見ることが出來ない場合には政府又は公共団体は其配當率が年五厘に達するまで補給金を與へること、恰も輕便鐵道の補給のやうにして其經營の初期を援助すべきである。

東京大學の經濟學部教授渡邊鐵藏氏は、建築組合の特權の隨一として割増金付債券の發行を許可して資金を潤澤ならしめよと唱へて居られるが、それは建築組合が資金に關して困難に陥ることを前提として考へられたのであらうが、吾人もその意味に於ては決して反對する者ではないけれど、我國の現状ではそれほど資金に困難することもないかと思はれる。若しまた民間の小額資金を蒐めることが社會經濟の調節上利益であると云ふ意味からならば、勞働階級をして小額割増

金付債券に應募させることや、右債券に對して公債・勸業債券などのやうな特權を付與することも可なり有力なる事項であらうと思ふ。尤もこんなことは住宅建設の普及には少し縁遠い嫌があるから之で止めにする。何れにしても我國では古來住宅の建設を貧弱にし、しかも一切を無理解な個人家主に委ねて少しも顧られなかつた關係上、以上述べたやうな特權や利便は其の經營者には少しも與へられなかつた。併し今後の住宅建設が社會の需要に順應して適當に進行することを望むならば、其經營者が市であるにしても建築組合であるにしても、如上の特權は先決問題として絶對必要の條件でなければならぬ。若しそれなくして都市住宅問題の解決を求めらば、到底適當な方法を見出し得る筈がない。

住宅經營に對する監督と制限

尙此他に建築組合の特權として要求すべき事柄もないではないが、それよ

りも其半面に於ける監督と制限とは更に重要な事項であるから、二三それを述べて置きたい。抑も建築組合の仕事は慈善病院などのやうな受身の作業ではなく、全く積極的で建設的でしかかも打算的でなければならぬのだから、其經營は生氣潑瀾と同時に緊縮整然たるを要する。故に之に對する制限と監督の必要なことは他の事業とは全く趣を異にする。

經濟方面の制限

建築組合の作業には二つの方面がある、即ち其一つは經濟的の方面で他は技術的又は實用的の問題である。で組合を監督する場合にも自然斯の兩方面から見るを要する。而して監督制限ともに其組合を最も有効に活動させるやう指導す

ると云ふ意味を有つて居なければ、却て經營に支障を來す虞のあることが斯の事業の性質上特に注意すべき點である。經濟的方面の制限は家賃の決定と其取立法及び家賃の改定等を主とし、凡て經營上の收支を指すので、就中家賃の決定は社會的に見ても可なり重大な問題であるから、經營者も内密に之を定める譯にゆかないのは當然で、英國都市の市營住宅のやうに工費の内譯書と經費を明細に公表して家賃とのバランスを一般に知らしめるなどは必要なことである。又一面に於ては簡人住宅經營者に餘り甚だしい迫害を加へない程度に家賃を据置、くことも肝要である。近來二三の富豪が寄附的に破格の安價で住宅を提供するなど、振れ出して、而も容易に實行の運びに至らないと云ふやうな事は、簡人住宅經營者の努力を鈍らすばかりでなく、却て住宅缺乏を助長する傾向さへ見える。又各大都市の理事者が小住宅の公營計

畫を高唱しながら容易にそれを實況し得ない事實などは矢張り住宅缺乏を間接に助成しつゝある一例である。

技術方面の監督

更に其技術的方面の監督に至つては、一層至難の事に屬すると云ふも過言でない。我國都市住宅の適當な設計案は今日のやうな過渡時代には容易に得られぬのだから、永遠的の都市住宅經營も約り其根底を有しない譯である。唯理論としては、其技術家選定の際に一應監督官廳の許可を受けるとか設計案の認可を得ると云ふことだけで十分なのだけれど、實際は却々さう容易い事で實効を擧げるやうには運ばぬものと見ねばならぬ。斯の問題を解決する爲めには、内務省は英吉利の地方院が盛に募集したやうに、住宅設計案を募集して、之を社會的に講評するを其第一歩とし、其他建築學會や大都市當局者に於ても此研究を緊急の用務とせねばならぬ。斯

の事はまた別に論ずることとし、此處では主として應急的田園都市の住宅のみに就いて考へるものとし、過渡式木造長屋を以て當分満足するとすれば、其監督も豫想するほどの大きな困難に出會はないで済むかも知れぬ。

結論一

我國現時都市住宅の缺乏は實に其極に達して居るので、物價の騰貴と相俟つて市民の生活の不安を助長して居るのは事實であるから、其救済は目下焦眉の急に迫つて居る。然るに従來我國では行政立法ともに斯の社會政策的施設に關する準備が少しもしてなかつたのだから、現時の窮迫に際しても何等徹底的な方策を立てることが出来ないのも致方はない。近來大都市の理事者が頻りに其市外の住宅經營に努力して居るけれども、恐らく今後益々發展する都市の住宅缺乏を補ふことは殆んど不可能と見ねばならぬ。今假に六

大都市が毎年十二三萬づゝ人口を増加するものとすれば、一戸五人平均として正に二萬四五千戸の新住宅を必要とする譯で、其工費と土地の價格を一戸當り貳千圓としても約五千萬圓の費用を要する。然るに目下傳へられるやうに内務省が一千萬圓足らずの低利資金を六大都市へ貸付けて、それで住宅經營が進行するとしても、此不足を濟ふにはまだ、距離がある。況んや住宅經營上何等特權のない市理事者にどうして此解決が出來得る筈があらう。

要するに、都市住宅の欠乏を最も適當に救済して市民生活を安全な状態に導くには、法律や行政命令を以て十分な特權を附與し、其經營を公共團體或は建築組合(財團法人又は株式組織)に一任するより外に方法はあるまい。其特權の行使や經營の指導監督は可なり難かしい事柄であるけれど、官民の自覺による最善の努力を盡したならば、兎に角我

國現時都市住宅缺乏の窮狀を救ふことは出来るであらう。

結論一

併し之を永遠的の畫策から觀ると、我國の各都市は未だ永遠的都市計畫を立案して居ないのだから、將來の住宅地域を確立することは當分不可能であらう。此等は都市民に永遠的期望を起させるには最も不利益なこと、云はねばならぬ。吾人は我都市の前途の爲めに、一刻も早く其永遠計畫を確立して斯の不安の狀態から脱し、永遠的住宅地區の設定と恒久性住宅の建設に努力すべきである。而して其等の準備として住宅經營に對する特權の確定と理解ある公益主義の建築組合又は會社の設立を始め、恒久性住宅設計案の研究を十分にすることを先決問題とする。當事者並に世の先覺者たちが果して斯の順序ある徑路を辿つて居るであらうか。

(大正八年八月稿)

生活改善と我國の住宅

中産階級以上の生活改善——一般民衆の生活改善——現代科學の積極的應用——住宅問題と我國の現狀——我國住宅改善の難關——生活の舊慣打破——住宅改善に對する我國の風潮

中産階級以上の生活改善

生活改善の期望は、今では世界的な潮流となつて宛ら激しい渦卷をなして襲來したやうに思はれる。我國のハイカラ黨は今も歐米各國の狀態を以て最も洗練された文明的な生活とし、我國の現狀を甚だ愀然な混亂極まりなきものゝやうに考へて居るらしいが、最近のデモクラシーや社會主義の勃興から、竟に歐米民衆生活の真相が赤裸々にさらけ出されて了つた。なるほど彼等の云ふやうに、我國民大多數の生活は程度の低い實に感れなもので、殊に其和洋兩様新舊混亂の狀態に至つては大に改善の餘

地があるけれど、歐米上流の端正にして富裕な生活振りばかりを見て無闇にその文明的なのに憧憬して来た我國のハイカラ連中も、歐米民衆の大多數を占めて居る労働階級の生活が決して現代文明と一致する程度に進んで居ないことには餘り氣が付かなかつた。それ故斯の種のハイカラ黨によつて従來唱へられた生活改善は、單に中産階級以上の生活が比較的不經濟で且新舊和洋混亂の状態にあることを指摘するに過ぎなかつた。固より中産階級以上の者の生活改善も必要ではあらうけれど、彼等が今も尙和洋兩様の服裝をして新舊兩様の趣味に没頭し居るのは、未だく彼等の生活に餘裕があるからで、もう一段世の中がセチ辛くなつて來ると、今の不經濟な生活法が自然的に洗練せられて、總ての問題が解決されるやうになるのは明白であるから、何も喧ましく之を批難するにも及ぶまい。

一般民衆の生活改善

吾人の唱へんとする生活改善は、我國一般民衆生活の向上を意味するのであつて、そんな中産階級以上の不經濟な混亂生活の改善を目的とするのではない。それにして吾人が甚だ不思議に思ふのは、所謂中産階級者が此物價騰貴の甚だしい經濟的壓迫のあるに拘はらず依然混亂した二重或は三重の生活を繼續して、一向其改善を圖らうともしないことである。こんなことは彼等が自發的に反省すべき筈で、敢て社會的又は國家的に之を指導するとか其改善を勧誘すべきではないと思ふ。

現代科學の積極的應用

現代に於ける生活改善の大目的が、國民の大多數を占める労働階級の生活状態向上であるとして見れば、歐米各國でも其方面の努力が近時著しく緊張して來たのは當然のことで、單り我國ばかりの問題ではないで、文明國民と

して、現代科學の誨ゆる處の凡ゆる經濟的・衛生的及び娛樂的設備を積極的に施工して、共同生活の意義を秩序的に運ぶやうに努力すること、對内行政の大項目で、其對象の殆んど大部分が勞働階級であること、を稽へねばならぬ。生活改善に關する努力は、之を半面から觀ると確に社會政策であり又勞働政策である。曾ては勞働政策とか社會政策など云ふと、直に急進政治家の獨占舞臺のやうに思はれて居たらしいが、詮じ詰めて見ると、凡て現代科學の積極的應用を如何に運用するかと云ふことに歸着せざるを得ない。即ち、生活改善の社會的運動は、現代文明國民の最大義務で、又同時に其の實現を期待する權利を有するのである。

住宅問題と我國の現状

生活改善の第一は住宅の問題であることは、今此處に贅言するまでもないけれども、我國は

古來住宅問題に甚だ冷淡であつた習慣から、今だに其思想が一般に持續されて居るのは甚だ遺憾である。住宅の狀態によつて吾人の健康が左右せられ、家庭の幸福が加減され、又それが各人活動力の消長にも關係する等、其影響の大なること到底衣服や食物の比ではない。食料經濟や衣服改良の問題も固より國家の大問題ではあるけれども、各自その解決を試みて居る外に之を學理や統計に照らして漸次最善を盡すべき順序が立つて居る。然るに吾人の生活改善に最も重大な影響を與へる住宅問題が、現時の我國では殆んど顧られて居ないのは、實に不合理千萬なこと、云はねばならぬ。或は住宅問題は近時漸く高唱されて來たばかりだと云ふ人もあらうが、そんな人達の見解の内容は大抵現時の住宅欠乏を救済せよと云ふだけで、何等生活改善の基礎となることなど考へては居ないやうである。唯少數の建築學者や技術家などの間に

稍々深重な考慮の繞らされて居ることは事實だけれど、それとても献身的に之を攻究して社會に高唱すると云ふまでには至らぬ。併し歐米各國に於ける住宅改善計畫が最近十數年間に著しい實績を擧げて居ることは、吾人の大に參考とすべき所で、一概に西洋心醉なごゝ排斥すべきではなからうと思ふ。唯吾人の習慣や現状では直接彼地の案を参照することは出來ないのだから、其形体に囚れないで内容の精神を十分に批判して、以て我國將來住宅改善の大方針を立つべきである。

我國住宅改善の難關

住宅改善の難關は可なり多く吾人の前に置かれて居る。之を都市の共同生活から觀て、先づ第一に其環境との調和協力が困難な問題で、若し住宅が山腹の一軒家である場合には環境との關係は極めて單純であるが、都市又は村邑では各箇の住宅は其環境に不利益を與へないのを限度としてよく其調和

を圖り、協同一致して其利便に貢献しなければならぬ。斯の意味に於て我國從來の住宅は一大改善を要する。殊に其火災に對する不用意や外觀の貧弱なことは、到底文明生活の根據地とするに足らぬ。更に其内容の欠點に至つては、既に數次各方面で列擧されて居るから此處に一々それを詳述するを避けて、一言其大綱に就いて意見を述べることとする。

生活の舊慣打破

我國從來の一般住宅が有する缺點の中で、木材構造と云ふ其本來の性質のために脱却の非常に困難なこともあれば、又舊來の座式生活を株守する關係上どうしても難なこと、出來ない部分もあり、又都市全体の改良工事、例へば下水系統の不完全なごから其改善が容易に實行されないうこともあれば、炊煮法の改善から着手しなければ其施設を衛生上便利な様に工夫すること

の出來ない部分もある。其他服裝履物の混亂は云ふまでもなく、日常家族的生活の不安定不規律の持續など、凡て住宅改善の方針を妨げるものである。斯う觀て來ると、我國住宅の一般的改善は歐米のそれよりも餘程困難な事情が多いと云はねばならぬ。けれども、吾人は斯んな舊慣に拘泥して一向改善に氣付かなかつた我國現時の沈滯思想を一掃して、世界的で進歩的な積極的建設思想に轉換せねばならぬのだから、其方策の第一着手として先づ住宅改善の大手術を施し、以て維新以來五十年間逡巡して來た座式生活や兩様服裝さては孤立的炊煮法、其他一切の舊慣を打破して、共同生活の原則たる衛生經濟利便の三大要目に合致した生活方法を案出すべき道程に上らねばならぬと考へる。

住宅改善に對する我國の風潮

從來我國の住宅改良案として論議されたものは大体に、舊慣拘泥を以て動

かすべからざるものとし、唯其小部分の改良を工夫したやけであつたから、社會からはむしろ五十歩百歩の差として冷評されたのも致し方がない。現代は科學應用の最も旺盛な時期で、また精神的方面では倫理的公正を生活の上に發見しやうとする努力の時代である。斯の時期に際し、我國の最も遅れた凡ての組織改善の第一着手として住宅の改善を企畫することは、我國民の最高最大の義務であらうと思ふ。故に吾人は斯ほど重大な意義ある住宅改善を唯二三建築技術家の餘暇仕事に委ねて、ほとんど顧慮しない不堅實な現時の風潮を悲ますには居られぬ。

(大正九年一月稿)

都市建築勃興の大勢

二五八

歐洲戰亂と都市建築の減退——歐洲交戰國建築復舊の急要——米國の建築工費激増——我國都市に於ける建築界の現在——我國都市に於ける建築界の將來——戰後建築建設の勃興——吾人の所謂積極的態度の意義——製産力増進の急務——我國鋼鐵材の缺乏——セメント其他大製産の急要——材料需給關係の改善——我國建築界の缺陷とその對策——都市建築發達の障礙——木造建築の排罷——材料及勞力の需給難——建築の勃興と建築技術家——我國建築技術家の現状——建築學と建築術——建築技能充實の要——結論——同二——同三

歐洲戰亂と都市建築の減退

歐洲大戰亂の影響を受けて、各種の産業は著しく其組織を擴大したが、之に反し

都市建築の建設が却て大に其發展を阻止されたのは事實である。北米

合衆國の如きは國令を以て急要なもの、外は之を禁止したので、戰時中は俄然其建設數量を減じた。我國では別に國法によつて制限する等のことはなかつたけれど、鐵材の拂底と勞力の多くが戰時工業に傾注せられた等の爲めに、たしかに其發展を妨げられたやうに考へる。我國には不幸にしてその方面の統計が無いので之を數量的に識る譯にはゆかないが、直覺的に見たゞけでも都市建築の建設が一日送りに延期せられて來た事を承認し得られる。其理由としては、大戰終熄後はきつと物價が低落するから建設の費用も減ずると云ふ打算と、經濟界に活動して居る人達が戰時中は可成り多忙であるが其期間も應て終りを告げるだらうと云ふ觀測等を數へねばならぬ。

歐洲交戰國建築復舊の急要

歐洲の各交戰國では都鄙到る處甚だしい戰禍を蒙つて直接間接に家屋の窮乏

二五九

を告げて居たのであるから、戦亂の終熄と、もに……或はそれに達する以前に……其復舊の急要を感じた。殊に歸郷する戦士の爲めに其住宅を準備するの必要を可成り強く唱へられたことは吾人の既に見聞した通りであつた。昨年初春英國の國民保健局が、英全國を通じて五十萬戸の住宅不足を生じたことを報告して其急設を輿論に訴へたことは、吾人の寧ろ不思議に思ふところであるが、大戰の影響と最近社會状態の變遷から直接交戦地域でなかつた英國でさへもそれほど多くの住宅缺乏を招徠したことを思ふと、佛國や白國の現に戦塵の巷となつた地方では其建築復舊が如何に急要であるかは想像も及ばぬものがある。

米國の建築工費激增

最近亞米利加の報告を覽ると、北米合衆國の百七十一都市に於ける昨年度の建築工費は貳拾

六億五千參百萬圓餘(一、三二六、九三六、七〇五弗)であつて、一昨年度(一九一八年)の八億九千百萬圓餘(四四五、五四九、四九三弗)に比して正に十九割八分の増加である。(以上の統計は The American Contractor 誌に依る)又ドツヂ會社の報告書を覽ると、土木工事を含んだ建築工費は昨年十一月間に其額四十六億六千六百萬圓餘(二、三三二、九〇二、〇〇〇弗)に達し、一昨年度の三十二億六千萬圓に比して正に四割以上の増加である。而かも一昨年度土木建築工費の約三割三分は戦時施設費であつたのだから、其純一般的土木建築工費だけに比較したら其増加率は更に一層著しいものを見出すであらう。要するに昨年度の歐米各國、殊に米國の建築工事は實に空前の盛況で、戦亂中は云ふまでもなく戦前の何れの年度とも到底比較にならぬ程であつた。これは都市住宅の要求が頓に増加したのと、經濟的活動の開始に基く事務室や旅館の急要、さては戦亂の爲

めに閉塞又は破壊された建物の復舊等を、其主因に數へるを至當とする。

我國都市に於ける建築界の現在

我國でも大戰亂の終熄と共に、豫て建築工費の低落を期待して其工事を延ばして居た者が、當分逆もその期待の實現しないことを見越して一齊に建設を企圖したやうに觀察される。搗て、加へて現時我國の都市建築は早晚大改造せらるべき運命にあるもので、都市計畫熱の勃興と並行して其改造實現の急要を感じて居る際であるから、資力に餘裕のあるものや永遠の經濟的基礎を考へる人達が經濟の原則に適合し且現代科學を應用した堅實な文明的建築物の建設を思ひ立つやうになつたのは、寧ろ當然の傾向と見るべきである。そんなら我國都市の建築は今後どれ程まで發達進展するかと云ふに、大体に於て可成り急激な増

進状態を持續するものと見て差支へなからう。現在設計中に屬するものや既に工事に着手したものだけを數へても過去十年間に比して非常な増進で、更に其計畫の必要の迫つて居るものを合算したら其工費は恐らく數億圓に上るであらう。之を北米合衆國の急進状態に比する譯にはゆかないとしても、兎に角或距離を保つて彼と並行して進むべき運命を有する。

我國都市に於ける建築界の將來

建築が一種の誇張的外觀を裝ふ表象であつた時代はいざ知らず、現代のやうに經濟の大潮流と並行して其建設が企てられ、しかもそれが經濟的活動の主要なる基礎條件となるやうになつたからには、今後の建築は今までのやうに浮華な一盛一衰の小波動に漂ふ單なる藝術的表現の手段に過ぎないものであり得ないことだけはたしかである。我國の經

濟力は今や世界的に其弾力性を發揮して、海運に於て又一般製産業に於て、未だ歐米の第一流國には及ばないとしても、少くともそれに追付かうとして進んで居るので、开處にはまだ前途悲觀の種がないでもないけれど、吾人は凡ての方面に於て之を突破して進むべく全力を盡して居るのだから、今後の我都市に於ける建築物は必ず世界的の大潮流に副ふて進展するものと見なければならぬ。尤も其進展の度合は經濟界の消長によつて幾らかの曲折はあるであらうが、從來のやうな甚だしい沈衰状態に陥ることは萬あるまいと思はれる。

戦後建築建設の勃興

北米合衆國では、大戰亂以前毎年拾貳億圓を下らない程度の建築が建設されて居たが、一九一七年大戰に参加してから後も尙毎年六七億圓に値する建築工事が行はれて來た、夫れが戰亂の終熄と同時に忽ち増大して一年間參拾億圓

に近い建築工費が投せられたことは、米國式成金振りを遺憾なく發揮したものとも見られるけれど、其建築物が決して輕佻浮華な虚飾的贅澤物でなく殆んど質實堅牢な經濟的實用構造物ばかりであることを知つた時、如何に根強い文化的施設であるかに一驚を喫せざるを得ない。我國の建築界は未だ幼稚なもので、其經濟的識見も不透明な點が多いから、到底彼の徹底的なのに比較する譯にはゆかないが、現時の状態を更に一步進ませると、今後起るべき都市建築の改造は可成り急進的なものとなり得る可能性を有する。吾人は不幸にして之を數量的に打算するほど精確な推定を下し得ないけれど、我六大都市改良費は今後十年間に少くとも參拾億圓を下らないであらうが、約其半は建築物の建設に屬するものと見て差支へなからう。北米合衆國では昨年度一ヶ年間の建築投資金額正に貳拾六億圓以上に達し、土木工事費を合算す

ると實に五拾億圓に近い數字を示して居る。我國今後十ヶ年間の都市發展に參拾億圓を費すことなどは彼に比して僅に其十數分の一にか當らぬのを考へると、古來曾て企て及ばなかつた此の大建設も、世界的に見れば餘り大した計畫と云ふ程のものではない。併し我國現時の經濟狀態や生産能力の程度でこれが遂行を期するには、可成り思ひ切つた積極的態度を以て出發せねばならぬであらう。

吾人の所謂積極的態度の意義

積極的態度とはどんなことであるかと云ふと其材料生産力の増進を圖ると同時に建築技能を發達させることであるが、我國現時の建築材料生産は非常に貧弱で、逆も吾人の豫期して居るほどの需要を充たすには足るまいし、又之を運用する勞働者の數や質に於ても既に著しい缺乏を感じて居る。抑も建築工費の約七割内外は其材料費に屬する。で、拾五

億圓の工費中約拾億圓は今後都市建築が消化する其材料費と見るこゝが出来。固より其種類が甚だ廣汎雜多であるから、同一種類同一品質のものとしては存外少量であらうけれど、主要材料として數へられるものは僅に六七種に過ぎないので、其生産が貧弱で高價なことはやがて建築工事の勃興を制限する主要な原因となるのである。

生産力増進の急務

都市建築の主要材料として數へられるものは、鋼・セメント・煉瓦・テラコッタ・石材・木材・石炭・砂利・砂・銅板等であるが、其内石材・木材・砂利などは全くの天産物で別に製造力を要しないが、鋼・セメント・煉瓦・テラコッタ等に至つては全く優秀な製造能力の齎す材料であるから、大規模な組織を有する完全な工場經營の下に其生産を圖らなければ、到底優良で低廉な製品を多額に供給することの出来ないのは明かである。然るに我國これまでの狀態では

到底需用を満たすに足らぬ。現に其供給不足の爲めに建築工事の進行が甚だしく阻害されて居るのは寔に遺憾の極みで、若しいつまでも此儘で行かうものなら、都市經濟の發展上實に由々しい損害を醸成するだらうと思はれる。近時鋼鐵材其他の價格は殆んど禁止的相場を現出して戰亂中の非常缺乏時に等しい状態になつて居るが、之等は果してどうしても其生産を増進することは出来ないのだらうか、吾人が特に大方の注意を喚起したいのは斯の點である。

我國鋼鐵材の缺乏

我國に於ける鋼鐵材の缺乏が古くから工業界の各方面で深く憂慮されて居ることは今更嘸々するまでもないが、我國從來の建築には其缺乏がさして甚しい苦痛を與へなかつたけれど、今日となつては都市建築の殆んど大部分が其缺乏の爲めに建設の基礎を失ふやうな現況になつて來た。であるから、鋼鐵

材を豊裕にして容易に需用を充たし得るやうにすることが造兵・造船・土木・機械の諸事業と共に我建築界の基礎的要求であると云つても差支へない。どうすれば我國の鋼鐵製産額を増進せしめることが出来るかは可成り六ヶ敷い問題であるが、さればとて吾人は今の貧弱な状態を傍觀して居る譯にもゆかない。

セメント其他大製産の急要

セメントの製産額も我國では一ヶ年僅に一千萬樽内外で、之を以て現時及び將來の需要に應じやうとするのは甚だ心細い次第である。北米合衆國では戰前既に年額一億樽を製出したのだから、戦後は更に其大製産が企畫されることだらうと考へる。で我國でも此際セメント製造業者の大合同を作つて大製産を計畫し、以て今後の缺乏を救済することが目下の急務であらう。煉瓦・テラコッタ等の製産も必ずしも今までの擴張

だけで進むべきではなく、更に建築界の進歩に適應すべき品質形態を研究して一大製産力を發揮すべき機運に到達して居るなど、殆んど議論の餘地はあるまい。

又石材の産出、木材の製材形態及び利用等も、たゞ現在の方法だけで擴大するのは好ましからぬことで、一層十分に其統一や利用の途を研究し大方針を定めて發展を計るべきである。僅少で不統一な材料を奪合ひするやうな需要家の態度や現状維持を僥倖する供給者の方針は、此際斷然改めなければならぬ。

材料需給關係の改善

要するに現時我建築界に於ける材料需給の關係は實に消極的な姑息手段であつて、現状僥倖主義とでも云ふべき状態である。斯んな状態が持續されることは、都市の發展に最も不利であるばかりでなく、建築に關係する各種事業の一

大障害であるから、其製産並に供給の方法を刷新して積極的な統一的に其組織を改め、以て來るべき都市建築發展の進路を開くべきである。

我國建築界の缺陷とその對策

建築勃興の大勢に順應するには、其材料の供給を豊富にすること、熟練した加工力を普及させること、が必要である。然るに我國現時の建築材料製産力は、依然として舊態を脱することが出來ないで、今までの幼稚な經濟状態に對しては漸く其需要を充たし得たが、これからますます激増する建築界の大勢に應ずるには、其準備があまりに遅れて居る。そればかりでなく、材料の形狀寸法が統一を缺き、品質の種別も亦區々であり、且運輸機關の不整備や販賣組織の亂雜なことなど、一として現代の文化程度に後れないものはないやうな始末である。殊に建築労働者の訓練に至ては殆んど統一的組織がないので、唯古來の大工左官塗師屋等

が急に文明式職工に早變りして過渡時代の當座要求を充たして居るに過ぎない。故に今後其優れた手腕を要する時期に至つて依然として今のまゝの職工が之に従事するやうであつては、如何に材料の供給が豊富になつても到底我建築界の圓滑な發展は望まれない。今試に我建築界に於て最も緊急な改善要項を擧げて見ると、

- 一、材料の形狀寸法の統一を計ること（一般度量衡の統一と關聯す）。
- 二、建築材料の製産事業を刷新して其擴大を計畫すること。
- 三、建築施工に際して機械力の利用を普及せしむること。
- 四、職工教育の組織を確立すること。

等で、更に此等の全体と相關聯して建築行政の行届かないことや建築技術家を初め建築に關係ある識者階級の努力の足らないことなどが、

特に改善を要する點ではあるまいか。

都市建築發達の障礙

建築材料や施工機關の適當な供給を得ない我國の狀態が、現代文明の基礎的條件である都市建築の改善事業を阻害して居ることは明かな事實である。然るに我國の一般經濟界は近時漸く堅實な發展をして都市建築勃興の機運を醸成し、今や其第一期に入らうとして居るので、上述のやうな斯界内容の大缺陷に禍せられて其前途を阻止されやうとするのを、吾人は手を空しう傍觀して居る譯にはゆかぬ。材料寸法統一の事業は最近建築界各團體聯合會によつて其端緒を開かうとして居ることの事を聞いて、聊か意を強うするものがあるが、製産力の充實に至つては未だ甚だ覺束ないのである。

木造建築の排罷

我國建築材料の隨一たる木材は今や漸く其源泉の涸渴を告げるやうになつたので、徒に使用することを許さぬが、之と同時に都市文明百年の長計として極力木材の使用を避けねばならぬ。で國家將來の大計を鑑へると、社會一般が木造建築の建設を罪惡視するやうに宣傳することが或は緊急事であるかも知れぬ、製紙其他の工業に於ては木材の代用品を得ることは甚だ困難であるけれど、建築に於ては木材に代るべき石材・煉瓦・コンクリート等のより堅實な材料があつて、しかも却て其代用品が現代文明の要求する處であるから、木材の使用は寧ろ之を排罷するを急要とする。

材料及勞力の需給難

一般建築材料供給の豊富を企圖し、其需給を圓満容易ならしめることの緊急を要するは云ふまでもないが、之を實行するには可なり大きな難關のあることを覺悟

せねばならぬ。又熟練した職工を得て規則正しく迅速に工事を進行せしめることは、材料の供給と相俟つて最も必要とするのであるが、機械力の利用や其他一般科學應用の幼稚な我建築界では、これ亦却々の難事であらう。此等に對する一大刷新運動は現今我國建築界の深刻にして痛切な要求であるが、其手段方法等に就いては此處にそれを述べる餘白がないから別編に譲ることとする。

建築の勃興と建築技術家

都市建築勃興の機運に際して其事業の中心樞たるべきものは、何と云つても優秀な建築技術家の技能であらねばならぬ。恰も軍事行動と參謀幹部のやうな關係で材料の取捨から施工運用の技巧を背景として其技能を發揮し現代文化の要求を適實に包容し得るやうな内容外觀共に具はつたものを設計するの要がある。譬へば彼の演劇に於て俳優が其技能を中心

としあらゆる藝術と科學的設備とを背景として、以て文藝趣味の精華を發揮するのと其趣を同じうする。故に都市建築の計畫を最も有効ならしめるには建築技術家の卓越せる技能に俟つを至當とする。

我國建築技術家の現状

然らば今日我建築界勃興の機運に會して、遺憾なく其指導の任に膺り得る技術家がどれ程多くあるかと云はゞ、残念ながら未だ不十分であると認めざるを得ない。我國の建築術は古來神社佛閣を中心とする彼の傳統的木造建築に限られたもので、工匠の術も亦一種の傳統的職業として存在したのみであつたから、近代建築術は明治初年に工部大學が創設されて泰西の建築學を教授したのを其發端と見るべきであらう。即ち今から僅に四十年前に初めて其技術の練習を開始したので、まだ一般に堪能な技術家の輩出せぬのも寧ろ當然である。尤も他の各種製造工業も其多く

は最近三四十年前に着手せられたものであるが、中には既に著しい進境を示して居るものもある。けれども建築術に至つては唯科學的研究だけではいかなないので、經濟や衛生さては實用的利便幸福等各方面的智識を総合せねばならなかつたり、外觀に於ては現代の固有藝術を發露するものでなくてはならぬ關係等もあつて、旁々一般の工業技術と其趣を異にする復雜至極なものであるから、其効果を收めるの困難は蓋し容易からぬものがある。で最近四十年間斯道に志したのも可なり多く、相應の努力も拂はれて居るのだが、未だ吾人の倚賴を満足せしめるに至らないのは萬止むを得ない次第である。

建築學と建築術

此處には現時我國建築技能の充實を詳論するの餘裕を有たぬが、たゞ一言辯明して置きたいのは建築術の技能は建築學の習得と同一のものでないことである。恰も繪

書の歴史を講じ其美術的價値を批評する能力があるからとて、必ずしも堪能な畫家となり得るや否やは疑はしいと同じやうに、建築學に精通したからとて直に堪能な建築技術家と云ふ譯にはゆかぬ。畫家が運筆の練習と構圖の工夫を凝らすには、審美學的立脚點から出發するのを便利とするが、それだからとて必ずしも其必要を原則とはしない。建築は繪畫のやうな純粹美術に屬するものではなく實際的要求を基礎とするのだから、斯の點に於て著しく其趣を異にするので、藝術的批判のみを生命とするものではない。而して科學的考索に其實体を置く關係から、科學の應用に堪能であることが建築技術家の基礎的須要條件である。

建築技能充實の要

我國でも建築學の研究は近時大に進んだやうであるが、其技術の進歩は未だ甚だ遅々たるも

のである。其技術の方面が可なり廣汎で、單に建築其ものゝ設計ばかりでなく、あらゆる社會相と相關聯する廣い意味に於ける環境の調和を其主要目的とするのであるから、其技能が如何に深廣なものでなければならぬか、想像せられる。吾人は此幼稚な我國の建築術をどうして向上發達させるかを攻究し、其進路を開いて現代の要求に適應せしむべく大に努力しなければならぬのである。

結論一

上述の如く都市建築の勃興は今や世界的の一大潮流で、其建設はますます急を要するやうになり、社會改造の聲と共に社會問題の一つと見ることが出来るやうになつた。又一面から觀ると經濟活動力大發展の準備行爲とも觀察される。最近英國の大藏大臣が其地方官憲協議會の席上で英本國各都市の住宅建設資金として十億磅の公債募集に努力するの意思あることを説述したなどは、明

かに住宅建設の事業が社會問題の中心であることを物語るものである。又米國では最近都市計畫事業の進捗と共に各種建築の建設が頓に其數量を増して、昨年一ヶ年間に三十億圓に近い投資を見るに至つたのは、經濟的大發展に伴ふ自然の要求と見ることが出来る。我國でも最近漸く住宅欠乏の聲が甚だしいので、官民共に其大建設を望んで居るが、從來其準備を怠つた關係から未だ何等實績の見るべきものもなく、逡巡其日を送つて居るので、政府では破天荒の低利資金運用を決意したけれど、未だ各都市ではそれを利用するまでも達して居ない。又民間の一般建築は近時急に勃興して來たが、其動機が最近の世界的經濟波動に起因するか或は一時の流行的計畫であるかは別として、兎に角社會一般が都市建築の重要なことを理解するやうになつた結果と觀ねばならぬ。然るに其建設が果して順調に實行せられて居るかどうか

は甚しく疑はしいのである。

結論一

我國現時の建築界で上述のやうな機運の進展を畫策して居るのかと云はゞ、吾人はさうでないと答へずには居られぬ。固より近頃のやうに物價が暴騰して、殊に建築材料の欠乏や勞力の不足の爲めに、あらゆる建築工事が行惱むやうになつては、新規計畫のものも其住宅であらうと病院であらうと、或は旅館または事務室であらうとも、苟くも經濟的打算の上に立つ建設物は自然其起工を見合はせるのを至當とする。けれども我國の建築界ではこれまで建築材料や勞力の需給に就いて深く研究したことのないばかりでなく、現時のやうな甚だしい状態に陥つても、斯道の識者は少しも其善後策或は對應方法を考へやうともしないのだから、今日の建築工事の行詰りも其責任の半は斯道識者の負ふべきものであるとも云ひ得る。建築以外

の一般物價の調節が困難な際に、單り建築物だけが其圏外に立つことは事實不可能であるかも知れぬけれど、實際の内容に觸れて見ると必ずしもさう無理だとも思はれぬ。材料の寸法が統一されて居たり其製産組織がもつと研究されて居て計畫者の準備がも少く其大局を達觀したものであつたならば、或は現在のやうな甚だしい行詰りには、到達しなかつたであらうと思はれる。

要するに我國の都市建築が今後ほもつと雄大な規模の下に堪能な技能に藉つて建設せられねばならなくなつて來たことは、大にして我國の經濟的大發展の爲めに、又都市生活の向上の爲めに喜ばしいことであるが、同時に我建築界大發展の回轉期として吾人の大に覺醒すべき時機であることを教ふるのであるから吾人は此際斷然幼稚な製産組織を改善して材料と勞力の需給を圓滿ならしめ、貧弱な今日の建築技能を發達させて、以て今後の大發展に順應すべきである。(大正九年四月稿)

文化生活と建築

我國の現代文化程度——建築物は國民文化の對象——非文化的な我國の國有建築——建築物を通じて觀た我國の文化——文化生活と我國建築の向上——行詰つた我國文化と建築の改造

我國の現代文化程度

現代の文化程度は各國民必ずしも一樣でないのは固よりであるが、歐洲及び米國の所謂先進國と稱するものも其一部分を除くの外は餘り十分に行渡つては居ないのであつて、其低劣な處になると上流人士と相距ること可なり遠いものがある。我國が古來特殊の文化によつて開發された一種獨特の文化生活を營んで來たことは、吾人の常に誇とするところであるけれど、之を世界的に達觀すると、其半面には驚くべき多くの缺陷があつたので到底現代の世界的文化と相並ぶを容さぬ程偏狭なものであつたか

ら、明治維新以來専ら歐米各國の現代文化を吸収すべく企て、今日迄約五十年間不斷の努力をつけたので近時漸く其面目を一新して、大體に於て世界的文化の潮流に副ふやうになつた。其程度が一般に低いことは云ふまでもなく國民全體を通じて其普及の度合の未だ甚だ薄いことを遺憾とせざるを得ない。

建築物は國民文化の對象

凡そ一國民の文化程度を知るには、最も多くの方面から之を観察するの必要がある。其藝術や文學や又は信仰の如何、風俗さては各種の制度習慣を初め經濟活動力の大小から交通や産業の開發等に至るまで、總て文化生活的內容に觸れないものはない。然るに之等のあらゆる内容を具体的に表現する唯一の對象は、其國民が日常利用する建築物であると云はれて居る。換言すれば其國其時の文化程度は其處に建設される建築物の内

容や外觀によつて其大要をト知することが出來ると云ふても差支へないのである。

非文化的な我國の固有建築

我國古來の文化は世界の一般から之を観て偏狹な不徹底なものであつたことは現代文化のどの方面から觀ても間違ひのない問題であるが、更に其建築物の實質や外様を觀る時一層明確に其感を深うする。今試に其著しい特徴の二三を擧げて見ると、第一に其實体が主として木材によつて構成されて居るから火災に對して抵抗力がなく、腐朽に對して耐久性のないこと、第二に寒暑の調節方法を欠き、盜難其他の不安に對する防備の不完全なこと、第三に都會生活の活動に不便で、衛生設備が不完全なることなどで、其他外觀が陰鬱で變化の妙味に乏しいことや、集團的輪換の美を成すに不利益なこと等、如何にも現代の文化と並行し得

るものでないことは敢て此處に呷々するまでもあるまい。

二八六

建築物を通して見た我國の文化

我國民は古來斯やうな特殊の建築に馴らされて來たけれども、明治維新以來其特殊な文化から脱して世界的の現代文化を亨け入れるやうに其方向を一轉したのだから、其建築も亦従つて其特殊な状態を脱して世界的現代式のものゝ建設することに努力するのが當然でなければならぬ。我國民現在の文化程度が果して歐米に比して遜色のないところまで向上進展して來たかどうかは、何時も各方面で喧しく論議されることであるが、其正鵠を得た測定は、現代の我建築物を一通り調べたら大体判るものと觀てよからう。斯の意味を以て現時の建築を觀察すると、どうしても我國の文化生活程度が未だ一般に低劣で、其特殊情態から脱することの僅ばかりであるのを認めずには居られない。殊に國

民大多數の住宅建築を觀るに於て其感を深うする。そればかりでなく東京其他大都市の中樞地域に於ける最新の大建築を見ても、其程度の餘り向上したものでないことが感知されるのを遺憾とする。

文化生活と我國建築の向上

建築は文化の標準器（標準器）であつて吾人の文化生活が現代の最も發達した建築に據らねばならぬものとすれば、我國の文化生活を現代の文明に副ふものとするには、少くとも我建築を大改善するの急要なことは明かである。固より建築物を改善するばかりで我國の文化生活のすべてが向上進展すると云ふのではないけれど、如何に國民教育が普及したり、藝術が發達したり、又社會的組織や政治的並に經濟的動力が向上發展したからとて、其建築物が依然として古來其儘の偏狹な境涯を彷徨して居るやうでは、吾人は何時までたつても眞の文化生活を營むことは出來な

二八七

い。或は大局から觀たら建築なるものは時代の文化に促進されて自然に變遷推移し、遂に其時代の文化程度に適合するやうになるのかも知れぬが、开は自然順應主義者の云ふところで大体に於て眞理に近い見解でもあらうかなれど、さりとて吾人は我國現時の状態に對してそんな見方をして此儘看過する譯にはゆかぬ、寧ろ一步先んじて建築物の改善を促進し、以て一般文化生活向上の指南者たらしめることを急務と考へる。歐米各國でも、今次の大戦が濟んでから其各方面のいろ／＼な改造の中で、改善された住宅の建設を以て最大要綱の一つとして居る。そればかりでなく、其要求の切實なことは我國の各地に於ける住宅不足ぐらゐなものではない。英國では十億磅に近い巨資を投じて少くとも五十萬戸以上の住宅を建設する企畫中だと云ひ、米國でも各都市何れも銳意住宅の大建設を企て、また一般に都市建築建設の般盛なこ

とは古來未曾有の盛況であると云はれて居る。

行詰つた我國文化と建築の改造

幸か不幸か、現時我國の過渡期文明は今や全く其方向を一回轉せねばなら

ぬやうに行詰つて、經濟組織から社會組織に至るまで凡てが現代の文化に取遺されやうとして居る。斯の機に方つて最も切實に改造の急要を感ずるのは、一般都市建築と住宅建築とである。吾人は其改造によつて現時の不徹底な過渡期の文化生活から一轉して世界的文化生活に移らねばならぬことを自覺すると同時に、切に――我建築界の一大奮起を期待せざるを得ないのである。

(大正九年六月稿)

都市生活と住宅

都市生活の意義——人口集中と都市生活の憧憬——都市生活は果して幸福か——都市生活の理想と反対の現象——文化的施設と理想の實現——都市生活改善の急務——都市生活上の第一義——都市計畫と内容的施設——都市計畫と文化生活の關係——改良住宅要求の急切——現在我國住宅の不備——我國住宅改善の急務

都市生活の意義

近代の文明と謂はれるほど、それだけ其色彩が都市的趣味と密集式形態に満ちて居る。一々實例を擧げて説明するまでもなく、最近に於ける都市の偉大な發展振りは統計的に又直覺的に其大局を示して誤なきを物語るもので、都市の各方面が最近四五十年間に驚くべき發展と進歩を遂げねば已まぬ状態にあることは、此處には述べぬけれど、其内容たる都市生活の意義に就いて

少し之を敷衍して、近代文明人の生活改善が如何なる程度まで進んで居るか、また或國都市民の生活を如何に向上せしめねばならぬかに就て考へてみたい。

人口集中と都市生活の憧憬

何れの國でも其國民の大部分が漸次都市に集中しやうとする傾向は近代文明の一大特徴で、殊に其傾向が主要な都市に於て殊に著しいのは、果して何に起因するかは、いろいろな方面から研究して見なければ其眞髓は得られぬのであるが、其原因の一つとして是非數へねばならぬものゝ中に、都市生活の幸福と云ふ觀念が存在することは否む譯にゆかない。尤も都市生活が田舎生活よりも必ずしも幸福であるかどうか、又都會の生活が小都會のそれよりもより多く幸福であるか否かはもとより大なる疑問である。そればかりでなく、國家の農工商業が相平均して

進歩する爲めには、一般國民に都市生活が田舎の生活よりも幸福であること云ふやうな觀念を抱かせることは政策上寧ろ不都合なことであることも觀られる。で近來農村生活の善美を嚮慕する人士も可成り多くなつたやうだが、田舎から都會に向はうとする斯の滔々たる一大潮流は逆も防止し得べくもない。其結果として、倫敦や巴里の人口が未曾有の激増を示し、紐育や市俄古が驚くべき大發展を現出したのだ。以て其都市經營の苦しさを想像することが出來やう。而して此等の傾向を心理的に支配して居る幸福なる都市生活と云ふ觀念は、一面に於て其因を成し他面に於てそれを裏切らうとする現象の防止を都市經營の努力に藉つて成功せしめやうとする實際的に緊切な要求と關聯するのである。

都市生活は果して幸福か

都市生活の幸福を享有しやうとして都市に集中した人達が、果して其期待したやうに田舎に居たよりも、より以上幸福に生活をする事が出來たかと云ふに見方に依つては幸福とも見られ又不幸とも觀られるけれど、之を現代生活の意義から觀ると、簡易から複雑に、單調から刺戟的に移り、又娛樂の機會を多くし、智識の増進を著くし、更に閑散な状態から繁劇に變じあらゆる科學的設備に伴ふ利便を享有する點はたしかに人生の幸福を増進したものと觀られるが、他の半面に於て、其強烈な刺戟に耐へ得なかつたり、浮華な娛樂に耽溺したり、或は智識の競争に落伍したり、科學的設備の利便を十分に利用することが出來なかつたりして、爲めに悲惨な生活を餘義なくせられて居る人達の甚だ少くないのを見ると都市生活の不幸を呪はずには居られない。即ち現代の都市生活は、

客觀的に論じて直ちに幸福であると斷ずるのは早計であるが、さりとて單に不幸であると限つて了ふのも餘り偏見に過ぎる。で、それ等の議論はどうかあらうとも、都市生活の漸次濃厚な色彩を帯びつゝある現代の經濟組織に於て其生活を最も幸福ならしめやうとする努力こそ現代文明の使命であると云ふ見解が、最も適切であらうと考へられる。

都市生活の理想と反對の現象

然らば、現代の都市生活とは如何なるものを云ふか、其理想は如何、又其古來の生活と趣を異にする點は何處にあるか等のことは、恐らく現代文明國民の已に熟知するところであらうけれど、今少しくそれを具體的に述べて其眞意を明かにしてみやう。抑も都市生活の理想とするところは、市民一般の生活を敏活ならしめて安全に且容易にすること、其經濟的活動に於ても家庭生活に於ても、又屋内でも屋外でも、常に其欲す

るものを最も容易に得させるのである。然るに之を實際的に就いて考へると、密集生活の招徠するいろいろな不便や弊害は常に其理想と反對の方向に引き戻す虞があるばかりでなく、密集度の高まるに従つてますます甚だしくならうとする傾向のあることは、吾人の最も深く注意せねばならぬ點で、云ひ換へると、都市生活の文化的價值を益々向上せしめやうとする吾人の理想は、却て其反對の結果に陥るの危険を免れ得ぬのである。最近二三十年前まで、歐米都市の市民生活は常に衛生状態や交通、住居等に就いて甚だしい壓迫を受けて居たので、長閑な天然の美に相親しみ同族相倚る團樂の楽しい農村生活に較べると寧ろ甚だ悲惨な状態であつたと云ふべきではなからうかと思はれる。即ち都市生活の幸福と云ふ觀念が全く正反對の事實に依つて裏切られて居た實例が少くない。殊に三四十年前に於ける英佛の工業都市や倫敦

巴里等の貧民部落の生活状態は、實に慘憺たるものであつたので、其の實狀を見聞した者は一齊に都市生活の改善を叫んだほどであつた。ハワード氏が田園都市を高唱したのも、英國の住宅法が生れたのも、又ポルンビルやポート・サンライトの理想的職工町が建設されたのも、凡て之に基因したことは殆んど周知の事實である。併し之等は都市集中の傾向が招徠した甚だしい弊害の一面を表面的に觀察したもので、現代都市のあらゆる文化的施設の不充分な實質を深く追窮する暇がなかつた爲めであることは云ふまでもない。

文化的施設と理想の實現

けれども今日では其文化的施設の進歩に伴つて都市生活の理想も漸次實現される時代に到達したやうに想はれる。近時の産業經濟組織が要求する都市集中の大潮流は、其一面に伴はうとする凡ゆる弊害を防止し得て餘あ

るばかりでなく、所謂都市生活の幸福を益々向上せしめ得るほどに其文化的設備が進歩して來たのである。今試に其設備を大別して見ると、

- 一、衛生的施設……給水の普及、下水系統の完備、建築の設備改善
- 一、娛樂及遊戯機關……公園及び遊園の配備並に改善
- 一、教育機關……學校、圖書館、研究所の普及、各種博物館及び陳列館の完備
- 一、交通機關……街路系統の改善及び舗裝の完備、各種交通機關の進歩と其普及

等に分類することが出来るが、更に近代科學の進歩は其内容に就いて發達改善を促したので、其結果は凡て都市生活の意義を層一層深からしめて、人生の幸福を増進したことは明かに之を看取し得られる。上述各項の内容を統一的に一大組織として之を研究し、適實なる計畫を立て、其實現を期するのが現代政治の眞髓であると觀ねばならぬ。近

代の文化生活は即ち其結果を享有しやうとするのであつて、生活改善の運動と云ふのも詮する處これに對する努力に外ならぬ。

都市生活改善の急務

近代に至つて、各先進國の都市は一齊に都市生活の意義を理解して其改善計畫を研究するやうになり一部は己に實現せられて居るばかりでなく、更に將來の爲めに雄大なる計畫を樹て、理想的都市生活を實行しやうと努めて居る。然るに我國の都市では未だ何等の目星しい施設も見られない。寔に貧弱の感を深うせざるを得ないか。若し現代の文化生活を享有しない文明國民があるとするれば、それは單り我國民があるだけであらう、これ實に吾人が我國民に向つて都市生活改善の促進を叫ばず居られぬ所以である。

都市生活向上の第一義

都市生活の理想を實現する爲めに努力して居る現代文明の針路は各國共に其軌を一つにして居るが、其手段方法に至つては千差萬別たるを免れぬ、中には都市の形態的整理を基礎として其改良を進めやうとするものもあれば、保健衛生や社會政策の見地に立脚して諸般の改良策を樹て、居るもあり、或は經濟活動の利便を圖るのに急なものがあるかと思へば、遊戯運動の施設や救濟機關の設備を重んずるものもあつてそれ／＼一長一短のあるを見たが、近頃になつて、其等の組織を一大系統に編成して完全な改良網を案出しなければ到底都市生活の理想に達せられないことが明白になつて來た。之を抽象的に説明すると、市民の交通、衛生、經濟保安を同一列に取扱ひ、適當な組織的計畫を立案して其實現を期することが、都市生活向上の第一義であると思へるやうになつた。我國に於

ける都市計畫法は遅蒔きながら斯の骨子に依つて出来上つたものと云ふことが出来る。

三〇〇

都市計畫と内容的施設

都市計畫案の確立と其實現が都市生活の改良と其向上を期待する根本義であることは、殆んど何人も承認する處であるが、其事柄が、餘り大いものと其實現と實際生活との感觸が餘りに間接的である爲めに、往々にして之を感得し得ない場合がある。市民はやゝともすると其都市の焦眉の急に迫つて居ることばかりに目を付け、さなくとも其經營や改良を以て直ちに實生活の幸福を増進するものと考へ、上述の如き一大組織の下に各方面に一齊に改良の歩を進めることは、生活上何等利害關係のない不急の事業であるかのやうに考へる傾向があるのは、寔に已むを得ない譯である。殊に都市計畫の立案は、主として都市生活改善の骨子に觸れるけ

れど、其筋肉たる内容的設備に就いて深く論じないのだから、一層其誤解を大ならしめる嫌がないでもない。寔に遺憾な次第である。抑も都市計畫に於て此等の大綱を論究して立案し、之が實現を期する眞實の目的は、都市生活の向上にあること云ふまでもないのであるから、其骨子の組立てのみに腐心して其内容的施設を忘れるなどは、寧ろ甚だしい錯誤であると云つてもいゝ。尤も其立案と實行の方面では、其内容的施設までも考へて居る暇のないことは諒とすべきであるが、もとゞ其内容の充實によつて初めて其計畫が生きるのだから、都市市民は豫め其諒解を有つて之に對應せねばなるまい。で、都市計畫に於て街路の系統を改めたり、幅員を擴張したり、路面を美しく堅固に鋪装したからとて、箇々の建築物が之に伴つて改善せられなかつたならば何等の價値をも認められないだらうし、下水道が完備したからとて、市民各戸に完全

三〇一

な衛生的設備が出来なければ却て其理想を裏切ることもならう。又公館地区の整然たる地割が出来ても壯麗な行政公館が築かれて施設が圓滑に運用せられ、音楽堂、劇場さては美術館、博物館等も建設せられて其豊富な内的印象を一般市民に與へ、各種の學校や研究所が完備して學術並に精神上の訓練及び其向上を圖る等の内容的努力が充實しなければ、其整理は宛ら生命なき形骸の立往生と聊かも異らぬ結果となるであらう。即ち都市計畫は都市生活向上の大目的に向つて進むのであるけれども、其内容的施設や活動と相俟つて初めて効果を現すのであるから、都市生活の理想に向つて進むには、先づ都市計畫の重大な意義を了解すると同時に、其内容の攻究を怠つてはならぬ。

都市計畫と文化生活的關係

近時般に高唱せられる文化生活と云ふのは都市計畫の骨組に伴ふ肉體的及び

精神的内容を意味するのであるから、都市計畫と文化生活とは恰も骨肉の關係即ち形骸と其精神のやうなものと見ることが出来る。吾人の所謂都市生活の理想とは所詮文化生活の向上に外ならぬのである。然るに世上の文化生活を高唱する人達は、主もに其内容的訓練に囚はれて、其骨子となるべき都市計畫の重要な意義など一向深く考へないで居るらしい。殊に甚だしきに至つては、都市計畫の組織的綱領さへも十分に會得しないで唯部分的に市民の文化生活を向上させやうとする者がある。要するに、現代文明の進路は、一貫した組織の下に文化生活の向上を期待するのであるのに、往々にして其組織的運動や努力の真相を理解し得ない人達の多いことを遺憾とする。吾人が都市計畫の急要を高唱しながら未だ一般に其内容的施設や訓練にまで説き進まないのは、其事柄を無視するからではなく、其骨組の構成を第一義としてま

だ其内容に及ぶ暇がなかつたからで、之が爲めに屢々世人の誤解を招き、竟には文化生活向上の運動と全く別種のものゝ如くに考へられるやうになつたのではないかと思ふ。歐米の各都市でも、都市計畫は文化生活の向上を招徠する基礎的事業であると云ふ大體の主義には何れも一致して居るけれど、其手段方法は必ずしも同一のものでなく、其施設の出発點さへも甚だしく相異つたものあるを見る。此處では其計畫や施設に就いて述べる餘裕を有たないが、民衆的文化生活の向上に關するあらゆる運動が其根源を都市計畫に發することゝ、社會政策的施設の普及や個人住宅内容の改善が現代文明人の最大努力を拂つて居るものであることを述べるに止めやう。

改良住宅要求の急切

都市計畫による骨組の改善と並行して其内容的施設の完備が現代の痛切な要求であること

は上述の通りであるが、其内容的施設の中で、我國民が最も著しく現代文明から取遺されて居ることは、其住宅の設備である。もとより歐米の諸都市でも現代の文化に並行した十分な設備のある住宅ばかりが行渡つて居る譯ではない。現に彼地に於ても最近十數年來改良住宅の要求が急切であつたので、國家若しくは公共團體或は慈善的計畫の下に着々其實行を督して來たばかりでなく、大戦中及び其後の緊張した家屋要求の叫びに促されたにも拘はらず、今尙ほ何れの都市でも住宅が拂底で古今未曾有の窮狀であると云はれて居る。住宅政策の最も徹底的に行はれた英國ですら戦後約五十萬の住宅缺乏を傳へられた位だから、佛・獨・伊等の歐洲諸國が何れもそれ以上住宅の缺乏に苦しめられて居ることを想像し得られる。尤も斯の缺乏と云ふのは、所謂現代の文化生活又は都市生活を味ふべき適當な住宅の缺乏を意味すること

は云ふまでもない。で、大戦の前後に亘つて、各國の政府や公共團體或は各種の専門學會などで、現代の文化生活に副ふべき住宅の設計案を懸賞で募集したり、又は其對策を案出して、其内の適當なものを實現することに努力したのは著しい事蹟で、何れも其住宅の改善と補充に相當の成績を挙げたが、而も尙ほ何れの都市でも現代の急切な要求を満足させるまでには、まだく前途遼遠なものがある。

現在我國住宅の不備

翻て我國の現状を観ると、其住宅は過去數百年間の特種文明の遺物其儘で、少しも現代文明の洗鍊を受けて居ない。吾人は其活動に於て已に國際的であり、國防計畫でも外交政策でも又産業經濟の組織でも總て歐米各國と對等で全く世界的文明の潮流に棹して其地位を持續して居るに拘はらず、其内容的實質の最も重要な部分を占める日常の家庭生活が、全然舊い特殊文

明の遺習に拘泥して居るのだから、其不自然で不調和なことや、不愉快で到底現代文化の方向に一致しないことは此處に論ずる迄もないのである。併し之を趣味の方面から觀たり又は氣分にのみ生きることから考へると、必ずしも長所がないではない。我國特種の東洋文明によつて久しい間によく洗鍊された木造の輕便住宅は、恐らく世界を通じて又と發見し得られないほど輕妙風雅な趣のあるもので、殊に其交換式構造の發達して居ることは、如何なる經濟的建築物も我國都市の小住宅に及ぶものはなからうと思はれる。けれどもよく考へて見ると、住宅は唯其内外の輕妙風雅なことだけで満足すべきものではなく、其實質が斯の家庭生活の眞實な目的を達するに相應はしいものでなければならぬのに、現在の日本住宅の殆んど凡てが斯の目的を達するに甚だ縁遠い構造物であることを遺憾とする。之を詳細に例示すると際限の

ないことだから、今一二の要點のみに就て云ふと、住宅の第一理想は生活の安靜を外部から保護すること、内部に於ける凡ての安全と幸福が保障せられねばならぬのに、我國從來の住宅では斯の要務を全然捨て、顧られなかつたので、現に寒暑の防備さへも十分に攻究されて居ない。就中最も滑稽なことは、一般の公的執務や職業的業務には立式姿勢を用ひて居ながら、家庭では忽ち折膝式に早變りすること、此等の矛盾が其服裝にも影響して、吾人の生活は日々二重三重に變化を餘義なくせられて居るのである。

我國住宅改善の急務

歐米では既に時代の進歩に伴ふ改良住宅の要求が急切であるのに、我國では事實上世界的活動の地位に立ちながら其住宅だけが數百年前の昔のまゝである。驚くべき矛盾は如何ともして是非之を取除かねばならぬ。我國に於ける生

活状態の改善殊に住宅改善の問題は、可成り久しい以前から屢次耳にしたが、それが今日迄何等の反響もなく葬り去られた事實は、吾人の最も深く鑒みねばならぬ點である。從來唱へられた住宅改善論は、大体これを二種に大別することが出来るやうに思はれる。其一は西洋心酔の餘り日本式の凡てのものを葬り去らうとする所謂ハイカラ式見地から來たもので、他は理論的に我國住宅の缺點を剔出して罵倒するばかりで遂に何等の對策又は改良策をも案出しなかつたもので、是等が何の覺醒をも促し得なかつたのは或は當然であつたかも知れぬ。今や我國の世界的地位はますます向上して、首尾一貫した文化政策の立案と其實現を急がねばならぬ時機が切迫したのであるから、吾人は一大自覺を以て住宅改善に努力するの急務なるを感せざるを得ない。これまでのやうな西洋式の直寫に甘んずべきでないと同時に、在來の日本式

建築の延長を夢みること容さぬ。宜しく風俗習慣の改善と共に生活全体の調律改善に共鳴することの出来る適當な住宅建築の立案を急いで、國際的活動と並行した家庭生活に就くべき基礎を築かねばならぬ。外には國際聯盟の大舞臺は展開して凡ゆる文物制度の世界改造を迫る機運に會し、内には生活の改善を要求すること漸く痛切なるものがある。斯の時に方て我國住宅の改善を立案することは、蓋し吾人の最大急務であらねばならぬ。

(大正十年三月稿)

都市民の自覺を望む

無策無自覺な我國都市——自治的精神の覺醒——都市と大火災——不安な我國都市の現状——火災の危險と都市民の覺醒——北米諸都市の防火的改善——建築改善と我國の苟且主義——我國現存建造物の價值——我國公建築の時代錯誤——神戸市の學校建築方針——貧弱な公共建築物——覺らざる都市民の責任——我都市の動的缺陷——交通便利の行詰り——街路の舗装と都市生活——路面電車乗客の激增——驚くべき大倫敦の交通量——結論。

無策無自覺な我國の都市

都市生活の改善が我國現時の緊切な要求であることは敢て更めて嘸々するまでもないが、之を現代文明の情勢から觀ても、或は生存の意義を明かにすべき吾人の使命から稽へても、現在吾々都市民の生活状態が如何に甚だしい時代錯誤に陥つて居るかは、少しく現状を考察すれば判るのであ

る。海には超ドレッドノート型の艦艦を浮べて商權を保護し、陸には二十五箇師團の貳貅を備へて防備を嚴にして居つても、其國民生活の文化程度に於て果して列國と比肩することが出来るかどうかを考へると、我國民は其防備に努めると同時に更に日常生活の改善に全力を盡さねばならぬことに心づかねばならぬ。殊に經濟的活動の中心たる都市民の生活改善が刻下の急務として各方面に高唱せられて居るに拘はず、其手段方策に就いては殆んど顧られて居ないなどは、如何に混沌たる過渡時代とは云へ、其無策無自覺の甚だしき轉た寒心に禁へないものがある。

自治的精神の覺醒

現代の都市生活がどんなものであるかは此處に詳述するのを省くが、それを享有する爲めに我都市民がどれほど努力して居るかを詳しく觀察すると、残念ながら

吾人は其餘りに低級なのに驚かざるを得ない。元來都市生活の向上を考へるに先立つて、一般都市民は現代都市の自治的精神を理解することが肝要なのだから、後藤東京市長が高唱して居るやうに自治的精神の覺醒に努め、それによつて都市生活の改善と向上を期待すべきである。併し物事は、原則や理論を理解させて實際を解決するよりも現實の事情の前に立たせて歸納的に必要を感じしめることが、より多く實効のある場合が多いので、斯の意味に於て、吾人は現在我國大都市の顯著な缺陷二三を擧げて自治的精神の覺醒を促して見たい。

都市と大火災

現代都市民の最大恐慌を感じるものは、時々襲來する火災の損害を第一とすべきであらう。都市出火は多く偶發的ではあるが、其頻度は可成り大きいので、それが偶然大風に際會すると一大悲惨事を惹起する。之を歐米各國大都市が實例に觀て

も、我東京や大阪京都杯の過去三百年間の歴史に徴しても、大火に見舞はれた都市の惨憺はる状態は寧ろ戦慄に値するものであつた。今から數百年否數十年前の、未だ經濟的活動の旺盛でなかつた時代には、大火によつて受けた瘡痍も其國民又は市民にはさまで甚だしい損害を貽さなかつたが、今日のやうな國際的經濟戰の酣な世では、其國の主要都市が一朝大火によつて壊滅に歸するならば、其直接損害は云ふまでもなく間接に其國民に貽す大損害は容易に復舊し得られるものでない。それ故十八世紀以後の歐洲大都市には、大火を防ぎ得ないやうな建造物は一つもないやうになつたが、其防備が十分になつたのは、一六六六年の倫敦の大火に懲りて各都市が建造物に大制限を加へたからである。我國では徳川時代否もつと前から數十回の大火があつて可成り夥しい損害を各都市に與へたけれども、其復舊に際して何等防備に就い

て攻究するでもなく、依然として在來のまゝなる脆弱な燃焼質構造物を以て以前と同じ都市を形成して來た。現在でも我國の大都市は、其最も改良されたと思はれる東京や大阪も、今だに大火の災厄に遭遇すべき大なる可能性を保存して居る。

不安な我國都市の現状

現代の都市で、其都市の大部分が火災に遭遇すべき可能性を有することは、經濟的安定の全然望まれないことを意味すると同時に、其居住の安定は勿論、國防上の計畫から社會の秩序維持に至るまで何時破壊されるかも計られぬ斯う考へると我國の都市生活ほど危険なものは世の中にあるまい。吾人の祖先は斯かる不安な所で連綿として子々孫々相傳へて來たのであるが、現代のやうな國際的に緊張した經濟力を中心とする文化生活などは全然知らなかつたのだから、或は之を以て一種の生存法として

得心して居たのであらうが、今日では迎も斯麼不安状態に満足し得る者は恐らく一人もなからう。然るに爲政者を初め先覺者を以て任ずる人達までが、此恐るべき我大都市の現状を救ふ方策を考へても居ないらしいのは、寔に痛嘆すべきことで、更に驚くべきは、都市火災の輕減から進んで大火の襲來を絶対に不可能ならしめるよう努むべき火災保險業者のあまりに自覺の無さ過ぎることである。歐米各國の爲政者が火災保險業者と協力して、都市の大火絶滅並に小火災の輕減を計り、消防設備の進歩と相俟つて偉大な成績を擧げて來たことを知つて居る者は、我國都市の不安がその儘に抛棄されてゐる暴狀を嘆かすには居られない。

火災の危険と都市民の覺醒

都市の火災は最も怖るべきもので、其大なるものは殆んど都市全体の致命傷と

もなるべき慘忍極まる危険性を有つて居ることなどは、實際我國の都市民には餘りよく了解されて居ないらしい。此了解の程度が懸て自治的精神覺醒の程度と比例するやうに思はれるから、其了解を容易ならしめるに適當な實例上の解説を少しく試みやう。歐洲で常に話柄にする彼の倫敦大火は一六六六年九月二日の午前二時頃舊倫敦橋畔の麴包屋から出火して、吹き荒む西風に火の手は西方一帯に蔓延し、更に風向が轉じて東部一帯に火勢を高め、約四晝夜の間焼けつゝいた恐るべき大火で、當時の倫敦中樞區域全部を焦土と化し、罹災面積五百萬坪以上に及び、今のチャールリング・クロスから以西テムス河の北岸まで全部烏有に歸し、其損害の莫大であつたことは空前絶後だと云はれて居る。尤も斯の大火が殷鑑となつて十八世紀以後歐洲の殆んど凡ての都市を全滅の可能性から救ひ出した結果を思ふと、必ずしも徒爾ではな

かつたとも云ひ得られる。我國では明暦三年の江戸の大火を筆頭として、或は倫敦大火のそれに勝るとも劣らないほどの大惨害を貽した火災が幾度も三都を脅したに拘はらず、我國民は一向其慘禍の可能性から脱却しやうとは努力しなかつたので、二十世紀の今日に至るも尙依然として我大都市は殆んど凡て其危険中に曝露された儘になつて居る。都市火災の危険を輕視するものは其大火の歴史や經濟的損失を考慮しないのではあるまいかと思はれるが、實は日常生活の直覺觀から存外火災を些細な事のやうに考へて居たのかも知れぬ。我國の都市を斯る不安な状態から救ひ出すには、都市計畫法や建築法規の勵行だけでは逆も覺束ないので、溯つて一般都市民の危険自覺から出發しなければ所詮其目的を達することは出來なからう。

北米諸都市の防火的改善

北米合衆國の諸都市は、其建設や發達が比較的新しい點に於て、我國都市改造の參考となるものが多い。殊に火災防備に就いて彼の都市が今日迄嘗めて來た苦い經驗は、採つて以て我都市民の覺醒を促すに足るものがあらうと思ふ。北米合衆國火災保險業協會の報告によると、一八七五年から一九〇九年まで三十五年間の火災による直接損害高を無慮九十八億圓と計上して居る。之を割當てると平均一ヶ年二億八千萬圓であるが、最近十ヶ年間は毎年約四億圓を下らないのを見ると、其火災防備が如何にも疎漫であるかのやうに思はれるけれど、彼都市の實狀をよく調べて見ると、必ずしもさう單簡に解釋するを許さぬ事情がある。以前北米の諸都市は大部分木造又は半燃焼質の建築を以て充たされて居たのを、最近に至つて銳意不燃質の建物に改善して居ることゝ、其都市に堆

積されつゝある富が非常に莫大であることなど、最も留意すべきであらう。最近では、一八三五年十二月の紐育大火(損害一七、〇〇〇千弗)、一八六六年七月のポートランド大火(損害一〇、〇〇〇千弗)、一八七一年十月のシカゴ大火(損害一六八、〇〇〇千弗)、一八七二年十一月のポストン大火(損害七〇、〇〇〇千弗)、二九〇四年二月のバルチモア大火(損害四〇、〇〇〇千弗)、一九〇六年四月の桑港大火(損害三五〇、〇〇〇千弗)等、著しいものとするが、其前後に亘つて所謂都市の大火は絶滅したと云つても差支はない。即ち今後北米の諸都市は大火を見ることはなからうし、同時に一般各種の火災損害高も漸次減少するだらうと思はれる。現在北米の都市が防火構造の強制や市民の自發的經營によつて其中樞地區の殆んど大部分を完全な防火地帯とし、今後火災に對し絶對的安全な状態に改善しつゝある其急速な發展は、吾人の常に賞讃措く能はざる處である。

建築改善と我國の苟且主義

我國でも近頃都市計畫法や市街地建築物法の發布によつて、先づ第一着に六大都市は防火地區を強制的に設けやうとする機運に到達したが、其實行に就いては未だ何等立案を見るに至らないので、却々に前途遼遠の感がある。されば都市民は一齊に其急要を叫ぶべきだが、それより先にもつと急要なのは、都市民自ら進んで建築物改善の計畫を立てることである。現代都市の經濟的活動は今までのやうな不安定な建築物に本據を置くべきでなく、安定確立の根城を構へて科學應用の凡ゆる利便を享有し、以て其最大能率を發揮せねばならぬ。それが應て眞實の經濟的活動であると同時に、都市共同生活の眞價を味ふ所以である。然るに我國現時の社會相を観ると、官公衙を初め神社佛閣は勿論、民間一般の建

築物は改善の歩極めて遅々たるもので、不安定脱却の努力が頓と緊張味を帯びて來ない。之を以て眞摯な風潮と見做すことの出來ないばかりでなく、寧ろ亡都即ち亡國の兆を感せしめる。最近東京丸の内郵便局の焼失した際、其焼跡へ更に以前のより以上の燃焼性構造物が再築せられたのを見ても、吾人は我國現時の苟且主義の情無さを嘆せずには居られない。尤も斯の種の實例は我六大都市を通じて殆んど茶飯事とされて居るので、之では都市民の自覺も逆も覺束ないものである。

我國現存建造物の價值

我國勢院の調査によると、我國富として算へられる建造物の總價額は約八十五億圓である。と云ふが、其建造物が主として脆弱な火災に對する抵抗力のないものであるとすれば、其價值も亦甚だ心細いものではあるまいか。尤も其一割餘りは稍永久性のものであるけれども、残部は今後吾人の努力に

よつて經濟的に有意義な恒久性の建物に取り代へねばならぬものである。その努力は單に富力の維持だけではなく、間接的に吾人の活動を助ける偉大なものであることを稽へたなら、我都市民は須く建物に關する傳統的超然主義を抛つて、一日も早く覺醒時期に入らねばならぬ筈である。

我國公建築の時代錯誤

我國の大都市に於ける諸般の施設中、著しく時代後れな、而も甚だ危險性の伴ふものは、學校と行政官衙の建築である。東京・大阪その他の大都市に於ける近時の學校建築を見ると、宛ら都市生活の不安を増進する方針を以て設計せられたのではないかと思はれるほどで、都市計畫法が發布せられて已に二年を経た今日、尙該法の精神をも覺らないで唯徒に膨大な木造建築物を人家稠密の中心地に建て、一時の間に合せ物で満足して居る市

民の心理状態は、どう考へても無智な時代錯誤たるを免れぬ。況んやそれが都市全體の不安を増進する燃焼性の構造物であるに於て、現代の文化を裏切るものであることを考へると、吾人は單に之を時代の産物のみと認めて見逃す譯にはゆかぬ。殊に昨今のやうに普通教育は勿論中等教育の施設が不完全で、各市町村とも其校舎の大増築を迫られて居る時期に、苦しい財政の遣り繰りから知らず、斯麼時代後れの危険な校舎を建築して、其不可を覺らないなどは、寧ろ現代を毒するばかりでなく、子々孫々に對して甚だしい損失を貽すものではあるまいかと思ふ。

神戸市の學校建築方針

最近神戸市では大に鑒る處あつたからして、學校建築には粗末ながら不燃質の鐵筋コンクリートを用ひる方針を立て、其一部は已に實現せられた。然るに或

者は市の財政上木造より外に採るべき途がないから、不完全とは知りながら尙不燃質構造物を建設することが出来ぬと主張して居る。彼等は未だ神戸市の斯の新しい學校建築方針を知らないものであらう。神戸市が必ずしも我國に於ける最も富有な都市であらうとは思はれぬ。唯斯の點に於て逸早く自覺した市理事者や市民の選良によつて考案せられ、それが實現せられたので、他の大都市より一步早く先鞭を付けたその自覺と勇氣は、大に稱讚に値する。我國の行政運用その他一般社會の施設に於て、斯の學校建築のやうな實例は枚舉に遑ないほどで、改善を要するものも多い。それが現状維持の事勿れ主義で推通さうとする一般氣風に妨げられてあはれ時代後れの醜態を曝露するのが常である。其中に於て神戸市が學校建築に目醒めた態度は、實に萬綠叢中紅一點の快感を覚えしめる。吾人は神戸の市理事者が市民と共に斯の尊ぶ

べき覺醒を回轉期として、更に今後都市經營の各方面に一大生面を拓かれんことを望んで止まない。

貧弱な公共建築物

官廳や公共團體に屬する各種の建築物にも亦燃焼性に富むものが多いので、其危険なことは敢て學校建築のそれに譲らない。中央政府に屬するものに就ては已に數次評論してその改善を促したのだから此處では省くこととするが、各地方の府縣市廳舎を始めとして病院警察各種試験所陳列館市營事業關係施設等は凡て市の中心に其位置を占め、都市造營物の模範或は規準となるべき責任ある建物として都市の内容的實質を向上する標的となるので、歐米各都市では都市發展の教導として其建築に重きを置くのであるが、我國現時の都市では、如何に過渡時代の財政が苦しいからとは云へ、其等建築物が餘りに脆弱で、都市發展の標的とするには貧弱

に過ぎるばかりでなく、多くが木造であるから火災の危険が伴ふ爲めに、市民の生活に一層の不安を與へて居るなどは、什う考へても等閑に附し去るべき事柄でない。中には例外として已に現代の文化に副ふべき程度のものに改善されたものもあるが、そんなのは殆んど數ふるにも足らぬ。

覺らざる都市民の責任

以上述べたところを綜合すると、我國都市の公共建築物は其理事者の怠慢から斯麼憫れな状態を持續して居るものゝやうにも考へられるが、現代の政治運用の妙諦を觀察すると、それはほんの表面的事實に過ぎないことが判る。都市民は其欲するところを明かに表示し得る法的權利が認められて居るばかりでなく、輿論の向ふ處、殊に識者の高唱する處は、それが不合理な要求でさへなければ、不完全ながらも必ず實現せられるのだから

市民さへ自覺すれば斯の種の大欠陥も漸次填補されることは想像するに難くない。現に建築物法では、内務大臣をして防火地區を制定させることになつて居るが、其適用によつて一刻も早く生活の安定を得べき當の主人公たる都市民が、一向平氣で宛ら馬耳東風の爲體なのだから、内務大臣やその關係當路者の怠慢もさることながら、寧ろ覺らざる都市民の態度が主要な根本原因であることは疑ふを要せぬ。詮じ詰めると我國の都市民は未だ經濟生活の眞髓を會得しないのではあるまいか、それ故その活動に處する眞實の準備など深くも考へないで、防火地區の制定などは都市生活の安定や文化の向上とは少しも關係のない事柄のやうに思はれて居るのではなからうか。吾人は其目醒めるのを何時までも待つて居る譯にゆかぬ。我都市民がもう少し眞面目に都市の不安状態に着眼して一刻も早くその改善の準備に取り掛るやう

鞭撻すべきである。

我都市の動的缺陷

靜的に觀た我國都市の驚くべき不安の半面に更に動的に觀て其處に甚だしい缺陷を見出さねばならぬ。我都市の動的欠陥の内でも、最も其改善の急要に迫つて居るのは、交通の不安と其停滯である。都市生活の動的現象は交通の利便を基礎とするのだから、それなくては全く其意義を失ふことは誰しも氣付く處だらうが、其利便の程度が漸次低下して昨今のやうになつても、尙其改善を考へない我都市民の態度は甚だしい矛盾と云はねばならぬ。進化の順序を享有すべく都市生活を營みながら、交通の利便に於て漸次退化しやうとする近時の傾向を其儘に見送らうとする思想は矛盾と云ふよりは寧ろ無自覺の極みである。

交通便利の行詰り

都市民の活動否生活の凡てが経済的にも精神的にも交通の利便に支配されるのは近代の大特徴で、密集の度が加はれば加はる程その傾向はますます濃厚になつて来た。都市の膨脹は正にその傾向と並行して進展し、其進展と累進的比例を以て交通量が増加した。之は科學應用の力にもよるが、一方經濟組織の緊迫的促進にも因し、又生活様式の推移にも基くのである。吾人は我國都市が凡て斯の近代的傾向を有つて居ることを承認するからには、現在東京と云はず大阪と云はず、何れもその交通量の激増と共に交通機關の能率程度を低下しつゝあることは仕う考へても交通便利の退化であつて、懸て行詰りのドン底に陥ることを想像せずには居られぬ。

街路の舗装と都市生活

街路の舗装が漸次改善されたとは云ふものゝ、未だその大部分は依然として雨が降れば泥濘靴を没し、晴れれば砂塵濛々として咫尺を辨せざる處が多い、こんな状態では交通上の不利不便は云ふまでもなく、物質的に精神的に市民の受ける損害は容易ならぬものであらう。或學者は東京市内物資運搬費損害を數字的に示した、それが毎年數百萬圓に上ると云ふので一驚を喫した人達も、間接な人事的損害の更に大なることには一向氣付かぬらしい。歐米各國では、人口僅に數千の小都市でも街路には必ず堅緻な舗装が施されて、都市生活の基礎の築かれてない處はない。近來我東京や大阪でも主要な街路は舗装されるやうになつて、その一部は已に完成して居るが、その施工が手ぬるいのだ、保存や清潔の方法が當を得ない爲めに、舗装しない部分と見分けがつかないやうな箇所さへ出

來た。曾ては工費が嵩むから街路舗装は不可能だなど、云はれたが、實際は決してさうではなく、寧ろ市民が舗装の急要を感じなかつた爲めに、冷淡に之を取扱つたからである。と見るを至當とする。東京市が六間幅以上の街路全部を舗装すると決議して、長くも帝室の御下賜金を頂戴してから既に三年になるにも拘はらず、其舗装の實績は上述の通りで、その完成には少くとも今後十ヶ年以上を要すると云ふから、完成する頃には古い部分は片端から大修繕を施さねばならぬやうになるだらう。我東京其他の大都市は其街路舗装費を負擔することが出来ぬほど貧しくはない筈であるのに、その工事が一向捗らないのは、全く街路と都市生活の重大な關係を自覺しないからであるのは明かな事實である。

路面電車乗客の激増

現時我國都市の市内交通は、主として路面軌道の電車に藉つて居るが、其電車の昨今の混亂状態は、殆んど行詰りを通り越して無理算段をやつて居る。之を唯一時的の現象と觀て寛恕して居る樂觀主義者もあるらしいが、それは論外として、一般市民は唯其の現状を不愉快に感じて居る位のものだ。吾人は斯の點に於ても市民の無自覺の甚だしさを思はざるを得ない。大都市の交通機關は日に月に其乗客數を増加するのが特徴で、我國の現状などはまだ、發展の初期に屬する。その初期に於て已に無理算段をしなければならぬほどの交通機關を、そのまゝ黙許して頓と積極的改善策など考へやうともしない處を見ると、仕うしても無自覺な鈍感な市民と云はざるを得ない。我東京市に於て市電が運ぶ乗客數は最近一日百六十萬を超え、大阪市では毎日平均七十萬見當である。斯の乗客數は

此儘もう餘り増加しないものかと云ふに、決してさうではない。其人口から打算すると、東京では一人が一年に三百回乗車するものとして一ヶ年九億、一日約二百四十萬平均となり、大阪では一日平均約百二十萬人を運ばねばならぬのである。世界の各大都市に於ける統計によると市民の乗車回数は一人一年平均三百回、或はそれ以上を示して居るが、我國の大都市も漸次それに接近しやうとする傾向があるのだから前記の打算も決して袈空的なものではない。して見れば我大都市の路面電車は如何にして將來の斯る激増を處理するか、此れ蓋し容易ならぬ難問題で、斷じて市民の冷淡な苟且主義を容さぬのである。

驚くべき大倫敦の交通量

昨年秋のロンドン・タイムズ紙(十月二十一日)は、倫敦の交通量が依然として増加しつつあるその驚くべき數字を掲げた。それによると同市の地下電鐵乘客

は毎日四百萬を下らず、朝夕群集の際アール・コートを通過する車輛數は一時間八百十六輛を算し、チャーリントン・グ・クロスに集中する三地下線路の車輛は一時間千二百十五輛を記録した。ことさへある。又乗合自動車の通過數(一時間)はチャーリントン・グ・クロス六四〇輛、バンク五六六輛、オックス・フ・ホード・サーカス五四二輛、ピツカデリー・サーカス五一四輛を示し、平日と雖も平均一割二分を減するに過ぎないと報じて居る。又一昨年センサスによると、倫敦市内の三交通機關(地下、路面の電車と乗合自動車)の乗客數は二十三億餘であつたと報じて居る。その他紐育や市俄古など米國大都市も何れもその交通量を増加して居るので、それぞれ對應策が適當に講せられて居るらしい。此處には我大都市の交通改善に關する意見を詳述することを止めて、唯我都市が現時の施設に一時的の部分改善を加へるやうな姑息手段では、到底交通緩和の大目

的を達し得るものでないことを警告して置く。

結論

以上、我國諸都市はその建築物の状態に於て、又市内交通の現状及び將來に就いて、甚だ憂ふべきものあるを考察したが、更に其衛生の状態、鐵道や港灣、市民の教養を司るべき美術館や圖書館等の設備、或は社會政策的施設など、考へれば考へる程各方面何れも貧弱なことを發見するので、それ等の欠陥を如何にして充實すべきかを考へる事が、我都市民當面の急務ではあるまいかと思はれる。さりとて其發程を政府に求める譯にもゆかず、市理事者の責任に委すべきでもないから、仕うしても市民の自覺による自治的努力に俟たねばならぬ。我都市民よ、何時までも桃源の夢に耽ることは、聽て退化自滅の發程である。須く現代文化の新鮮な空氣を吸つて、生氣ある積極的態度を以て進むべく結束せねばならぬ時機ではあるまいか。(大正十一年五月稿)

住宅改造の急要に就いて

生存意義透徹の欲求——生存意義透徹の表現としての住宅改造——
大戰後に於ける社會組織の改善——社會組織改善の好時機——社會
組織改善又は改造の意義——要求の第一は住宅の供給——住宅供給
問題の二方面——我國住宅の質の問題——文化生活の意義——傳統
的生活の脱却と住居の改造——先づ家庭座式生活の廢止——間取り
配置の改善——防寒設備の考案——結論。

生存意義透徹の欲求

吾人の生存の意義は果して何處にあるかと云ふことは、古來久しく論議されて來たのだが、然し比較的少數な哲學者又は思索家の外には、餘り多く之を眞面目に考究したとは思はれない。しかるに一般民衆が生存の意義を透徹しやうと考へ出したのは、最近歐洲大戰以來の著しい傾向であると言つても

差支へはあるまい。殊に我國のやうな官尊民卑の風習が中古以來の特權階級尊重の思想と共に傳統的に繼承されて來た國柄では、人生の自覺も少し詳しく云ふと民衆的傾向から生れて來た生存意義の透徹慾は、たとへ其の表現の程度が甚だ微弱であつても、傳統的な社會組織の現状から見ると、宛ら社會組織の驚くべき改造論であるやうに見られるかも知れぬ。で極端な保守論者は之を以て社會組織の破壊であるとも叫ぶだらうし又極端な文化主義者はそんな微弱な民衆運動は現代の文化程度から觀てまだ不充分であると云ふだらう。それ等は各自の見解が異なるに従つてその觀察を異にせるものと見て必ずしも之が曲直を批判するの要もないが、兎に角吾人は現代文化の傾向に添ふてその進路を採つて居る。斯の世界的傾向とも云ふべき生存意義透徹慾を防止することは出來ぬ。むしろその針路を適當に導き之を助長すべく

努力することが吾人の最高義務であると考へねばならぬ。吾人の生存意義を透徹しやうとする慾求は、傳統的社會組織に向つて其改造を要求すると同時に、經濟組織に向つても亦政治組織に向つても適當な改造を要望するであらう。しかるに其要求は程度や範圍に於て微妙な境界線を有つて居るから之を決定的に條件付を以て表現することは事實上甚だ困難なので、其處に拒否論者と急進論者との論争も生ずれば、政治的に、又社會的經濟的の兩方面から觀て、現代の人心を混亂せしめやしないかと云ふ憂慮を生ずる場合もある。人心頽廢の嘆聲が高唱せられる半面には、特權階級の横暴が批難されたり、不完全な社會政策的施設を餘義なくされた中央政府や地方官憲の狼狽振りや、各地の富豪が其宅地の一部解放を以て民衆怨嗟の保護壁としやうとする態度等と相俟つて、斯の傾向を一層明かに認識し得ると同時に、其程度や範圍

の不明瞭なことをますます確示するのである。

三四〇

生存意義透徹慾の表現としての住宅改造

上述の如き生存の意義を透徹しやうとする現代民衆の慾求は、各方面に於て具體的に表現しやうとして居るが、其の中にも最も眞摯な要求として其實現を助長すべきものゝ一つは實に個人住宅の改造である。之を云ひ換へると、民衆個々の家族にそれ〴〵人間の住宅らしい適當な家屋を得させることを以て、現代社會の最要急務とするのである。大戰後英國皇帝は其幹部に向つて、英國國民の凡てに好適な住宅を得さしめる政策は今後英國の最も重要な問題として努力すべきものである旨を告げられて、その熱心な態度を示されたと傳へられて居る。之などは最もよく吾人の意見に裏書するものと見てよからう。歐洲大戰後の彼地の社會問題が、經濟政策や國際聯盟の諸問題を超越して

開が眞剣味を増大し、其一端が常に「好適な住宅の供給」と云ふことに觸れて居るのを見ても、住宅問題を輕々視して來た舊式の政策や倫理道徳さては宗教を説く者に、覺醒すべき時機の來たことを知らしめるであらう。

大戰後に於ける社會組織の改善

歐洲大戰の以前でも、社會組織の適當な改善は常に考へられて居た問題で、十八・十九世紀に於ける英・佛・獨・伊の政治上の大變革は、之を生活と云ふ内面的實際から觀ると何れも社會組織の大改造であつて、更に他の一面には産業組織の革新であり、又生存競争の實現であつたとも觀られる。併しそれ等の内の如何なる大革新も、這般大戰後に於ける民衆の生存意義透徹慾のやうな熾烈な運動を伴はなかつた。大戰後に於ける歐洲各國の民衆生活が、物資供給の不充分から其根蒂をまでも枯渴させ

三四一

られやうとする甚だ恐るべき脅威を感じて、一齊にその安全軌道を求めやうとする猛烈な運動を惹起したことは、むしろ當然で敢て怪むに足らぬけれど、之を一時的現象として看過する譯には行かない、其處に社會組織の改善が大々的に叫ばれるのは勿論、其改善に關する具體的畫策、殊に生活の意義を透徹するに適當なあらゆる施設が要求せられるのであつた。

社會組織改善の好時機

社會組織改善の安全辨として從來各種の社會政策的施設は可成り深く攻究せられその一部は已に英獨その他の文明國に於て實施されて來たのであるが、それ等は比較的に微温的のもので、唯社會組織の現状維持に窮々たるに過ぎなかつた。尤も大戰以前の社會改善政策は主として漸進否現狀維持主義であつたが、大戰の爲めに其維持すべき社會組織は先づ第一に

其生存の根柢を脅威されたので、此處に一轉して其改造を畫策せねばならぬやうになつたことは、現時の窮乏に於ては甚だ不利を感じるけれど、人類將來の幸福を増進するには或は適當な時機であつたかも知れぬ。唯斯の時機に各種の社會主義的破壊運動が縦し部分的な小規模であるにしても、此處彼處に勃發する傾向のあることは機運の進路に却て曲折を生せしめるもので、少からぬ不利益を醸すのであるから、政局に膺る人士や先覺者は斯の傾向を十分に緩和して、社會組織の改善を適當に實現すべく努力せねばならぬ。

社會組織の改善又は改造の意義

然らば社會組織の改善或は一步進めて其改造とは如何なることを意味するのかと云ふに、吾人の所謂改造とは從來の政治及び經濟の組織を全部破壊して、勞働者階級を以て社會の司配者たらしめると云ふ様な無

謀な企圖ではない。唯現代人士の目覺めた生存の意義を透徹するに適當な新しい組織を在來の組織と置き換へることを目標とするのであつて、其新しい組織とても決して社會の形式上の状態を云ふのではなく社會の各分子が夫れ々各自生存の目的を達し得るやう凡ての施設を備へることが要求の主眼で、若し社會の状態が各人をして比較的平易に生存の意義あらしめるならば、それが即ち吾人の所謂新しい理想の社會組織なのである。現代の文明國民は主として其目標を斯の社會組織に置くのであるから、政治家の奮闘も經濟學者や教育家の宣傳も、其努力は總て斯の點に集中して居ると云ふも敢て差支へなからう。

要求の第一は住宅の供給

新しい社會組織が要求する實際問題の内、最も重大な事項は住宅の供給である。住宅の供給は、他の社會的施設即ち公設市場、失業保險、癩疾保養院、結核療

院等と相並行して適當に取計らはるべきは勿論であるが、それが民衆生活の利便を増進する各種の施設と共に、將來社會組織改造の要素たるべきものであることを考へたならば、斯の問題に關する研究は、必ずしも時事問題であるからと云ふやうな浮薄な意味でなく、最も眞摯な社會組織の根柢に觸れんが爲めであることを了解されやう。今日吾人が我國に於ける住宅の供給に就いて考究しやうとするのは、其眞摯な問題の内でも殊に急切なものあるを信するからである。

住宅供給問題の二方面

住宅供給の問題は之を二つの方面から觀る必要がある。一つは住宅の缺乏を救ふ爲めに多數の住宅を建設すること、他は從來の住宅を改善して更に一層好適な住居たらしめることである。而して改造の最も適切な機會は其建設の急要ある時なのだから、斯の二つの問題は其努力の方面は別でも

實際は同時に取扱はれることを理想とする。之を云ひ換へると、住宅供給は量と質との問題であるから同時に並行重積して進行せしめねばならぬ。住宅の量の問題は、所謂社會施設中の住宅政策として三四十年來英獨等に於て盛に論議せられ、已に法律及び行政の運用によつて或る程度まで實現せられて居るが、質の問題に至つてはまだ餘り深く研究されて居ないようである。然るに大戰後の住宅欠乏から量の要求は俄然として勃發し、英國の如きは大戰前に二十年間かゝつて漸く供給し得た數よりも更に多くの住宅を一時に要求せらるゝなど未曾有の大變調が社會組織の上に現れて來た。斯の種の要求は單り英國だけに止まらず、各文明國とも一齊にその傾向に襲はれたので、我國の如きも矢張り住宅欠乏の風潮に曝さるゝに至つた。

我國住宅の質の問題

住宅の量の問題は、國家の社會政策として又一面財政政策として、或は地方廳の行政上其解決難を懸へられて居る可成り苦しい當面の問題であるが、此處に吾人の最も深く憂へねばならぬ事柄は、我國一般住宅の質の問題である。元來住宅の質の問題は、歐米各國では我國に於けるほど重大なものではないのであるが、我國では現在住宅の内容外觀から總ての設備に於て、從來の捉はれた形態を脱却して一大革新を加へなければ、到底現代の文化に副ふた適實な生活を營むことが出來ないばかりでなく、此のまゝ打棄てゝ置くと竟には國際的生活の落伍者とならねばならぬかも知れぬので、現時の住宅欠乏を補ふと同時に、其質の改良、即ち改造住宅の適實な立案を以て、建設の根本を培ふべく努力せねばならぬのである。

文化生活の意義

三四八

吾人の生存の意義を透徹しやうとするには、須く従来の捉はれた生活から脱却して、文化的な合理の生活に移ることを考へねばならぬ。然らば其所謂文化生活とは如何なるものかと云ふに、近時文壇で屢々論議せられたやうに、其解釋奈何によりて黑白兩極端の結論を見るので、一方では之を高唱しやうとする他方では之を呪はうとする。吾人の見るところでは、文化生活の偏物質的方面ばかりを見て精神的方面を逸すると遂に呪はしいものになるが、所詮は兩極端論孰れも正鵠を失して居る。要するに現代の文明國民は、其精神的向上を圖ると共に、物質的にも現代の文化が教ふる至善を味ふべき生活に移らねば、生存の意義を透徹することは出来ぬ。強いて其改善を壓へやうとする精神訓練をなすなどは、不自然で且現代の物質文明を否認しやうとする無法な考へである。云はねばなるま

い。現代の物質文明は蒸汽の利用をその起點とし、電氣、瓦斯の應用から各種の機械的、化學的發明を利用しつゝ、其進路を開拓したので、吾人の生活は中古時代に比して著しく變化したばかりでなく、今尙日に日により以上の變化を累ねて居る。此物質的變化即ち文化的發展は、必ずしも精神的進展を伴ふものではないが、と云ふて決してそれを排除するものでもない。若し精神的進展の凡てを欠いて單に近代の物質的發展ばかりが文化生活の要素であるとするなら、其の價値は極めて低いもので、逆も吾人の生存を意義あらしめるものではない。その物質的進展を一層助長して健全な現代の文化を攝取し、其上に堅實な精神的文明を建立することが現代文化生活の眞意義でなくてはならぬ。物質的文明は恰も人類の肉體であり、精神的文明はその靈性であつて兩々相俟ち其處に初めて現代文化の光彩が發輝せられるのである。

三四九

傳統的生活の脱却と住居の改造

上述の如く現代の文化生活は、先づ其肉體たる物質的文化の健全な發達を計つて、以て凡ゆる文化的活動の基礎とする。其第一の要綱は、從來の捉はれた無意味な傳統的生活から脱却して、現代の文化に合致した生活状態に移るべく、其住居の改造を考究することである。歐米各國では合理的な現代式住宅の研究が著しく進歩して、今では漸次その實現を見るやうになつた。尤も歐洲では十九世紀以來否もつと遡りて羅馬帝國時代から住宅に就いて相當考慮せられて來たのであるが、我國の住宅なるものは鎌倉時代以來殆んど何等進歩したらしい形跡も見出されないほどで、而かも明治維新以後諸般の文物制度が一大刷新せられたに拘はらず、住宅ばかりは依然として徳川時代の慣習から一步も踏み出し得ないのだから、その生活上の不合理や現代文化に對して適合性

を缺いて居るのは顯著な事實であるけれど、鈍感な我國民は未だにそれを覺らないで、依然として陋習を株守して居るのは、どうしても現代の一大不可思議たるを免れぬで、其理由を考へて見るとそこいろいろのな事情を發見する。

先づ家庭座式生活の廢止

我國の住宅改造を促すには、其素因となつて居る幾多の事情を考察して、然る後其方法を案することである。即ち、先づ何よりも家庭生活の座式を廢することを以て、その手始めとせねばなるまい。談話食事、或は書見の際、疊の上に膝を折つて座る習慣は、傳統的因襲に捉はれた不便にして不快且つ有害な作法である。現に、活動の方面では全く座式を廢して椅子テーブル式を當然として居る。即ち官廳の執務はもとより、一般の事務所や交通機關の座席、學校、病院、圖書館等凡て座式を廢して居るのに、單り家庭

生活だけは殆んど全部未だ座式を保存して、其不自然な傳統的苦痛に甘んじて居る。斯の状態を冷靜に觀察すると、洵に謂はれなき事柄で、從來座式廢止に關して屢々各方面の意見も發表されたやうであるが、ほんの端的な理論的に批評せられたいけで、眞摯に之を論議するの誠意を欠き、竟に斯の不合理な作法を改めさせるまでに社會を刺撃し得なかつたのは如何にも残念であつた。

間取り配置の改善

第二には、常用室と寢室とを或程度まで明瞭に區分すること、子供常用室を設けて客室なるものを設けないことや、其他室の配置を稍歐米の住宅式に近いものとするは、近來、我壯年者一般の切なる要求であると信ずる。又室の内容及び外觀に於ては必ずしも從來の形式を排斥しないけれども、從來の形式中最も不便としたものは凡て之を採らない、例へば兩戸の如き、

椽側の如き、或は次の間の如きは、其の不便と不利益を日々に感ずるのであるから、それ等は全く之を廢止するがよからう。

防寒設備の考察

第三には、其防寒設備である。從來の住宅には一般に冬期の防寒設備が欠けて居るので、其期間の苦痛を凌ぐに容易からぬものゝあることは御互に體驗したところで、其家庭生活上の不快と不利益は擧げて數ふべからざるものがある。其設備は必要ではあるが、實施は不可能に近いとされて居たのであるけれど、それには多少の犠牲を拂へば必ずしも困難ではない。扇風機や掃除機と同様に電力を以て採暖する方法もあれば、又輕便な温水罐を設けることや、或はベチカを利用すること等も、其設計よろしきを得れば、開が結果甚だ好快なるものとなるであらうと思はれる。

結論

以上の外、各方面に亘り、部分的に又総合的に各種改造を施すべき點は甚だ多いのであつて、その案出や實現の巧妙な運用は、吾人の最も深く留意すべきところであると同時に、それ等の複雑な變轉極まりなき有機體的組織の進展は、一舉にしてその好適な理想に達し得るものでないことを知らねばならぬ。要は從來の因襲傳統に捉はるゝことなく、現代の文化に適合するやう歩一歩と改造の方向に進み行くべく努力し、漸次彼岸に到達することを以て我國現時の急切な問題とする。即ち我國住宅改造の機運を促進することは、經濟・軍事・外交等の重要問題を超越した我民族發展の將來に關する基礎的問題であつて、我社會一般の殊に深く留意すべき最も急切な事柄である。

(大正十一年九月稿)

災害防止と建築物の改善

緒論——災害防止の觀察點——我國都市の災害防止に關する結息手

段——系統ある下水道をすら有しない我國の都市——脆弱無價値な

舊套を脱し得ない我國の建築物——我國の都市に於ける火災の頻發

震災に對する我國民の無關心——近時流行の「安全第一」

緒論

安全第一災害防止の運動は、最近科學應用の進歩が齎した人類幸福増進策の一大要綱である。其目的は火災・震災・水害・病難・盜難等は云ふまでもなく、交通事故や作業上の傷害から日常生活の些細な事項をまで網羅し、従つてその範圍が非常に廣いものだから、開が改善運動も到底之を一律に取扱ふ譯には行かない。けれ共、其性質によつて大体これを二様に分類して考へる事が出来る。即ち個人的注意の周到による防止と、他は建設の改善による防止である。個人的——

人為的に注意の行届く訓練を爲して災害を未萌に防止することは、近來著しく進歩したやうであるが、此處ではそれに觸れないこととして専ら建設の改善による災害防止に就きて述べて見たい。

災害防止の觀察點

災害の防止は、常に生命の損傷と財産損害の二方面から観るを要すると同時に、更に直接・間接の表裏から觀察せねばならぬ。之を社會的に観る時は、此運動は洵に總ての社會政策の上に超越した凡ゆる善政の根源である。然るに世の現狀推移に甘んずる人達は、此運動を左程重大な意義あるものと考へ及ばないで、單に皮相的な個人の注意のみによつて災害を避けんとするのは寔に痛嘆に値する。最近我京都大學に於て、災害防止に關する綜合的の講座を設けやうと云ふ議があつたと聞いて、吾人は、其成績の如何を憂へるより先に、我學界の斯る態度が世間の現狀推移論者を刺戟し

て、その覺醒を促すことを喜ばずには居られなかつた。

我國都市の災害防止に關する姑息手段

人生の災害中最も怖るべきものとせられて居る震災と火災に對する防備は、主として建築物の改善によつて其目的を達することが出来ゝ。又傳染病の襲來や都市民の健康狀態低下の傾向は、公共下水道及び上水の普及と建築物の内容改善によつて防ぎ得られる。然るに之をたゞ個人の注意や一時的な消毒等の姑息手段によつて糊塗しやうとする我國の現狀は、全く現代の科學を應用した文化生活を理解しない態度で、我民衆の不幸之より大なるはあるまい。けれども、都市計畫法や市街地建築物法が發布されて我六大都市にそれ〴〵防火地區の制を實施せられることとなり、建築物の構造にも制限を加へられることとなつたから、此等の制限が先づ六大都市に行はれて漸次中小の都

市にも及んだならば、都市の災害は著しく軽減されるだらうと思はれる。唯吾人は一般都市民の無自覺なこと、當事者の緩漫な爲めに、斯の重要な災害防止政策も未だ何等具體的な効果を見るに至らぬを遺憾とする。

系統ある下水道をすら有しない我國の都市

歐米各國では、都市の中央部に防火地區を設け、建築物には嚴重な制限を加へ、郊外地帯にまでも或程度の構造物制限を實行するを例とし、何處へ行つても下水道の設備せられてない都市は殆んど見出すことが出來ないほどであるのに、我國の都市は、未だ防火地區の制定も決定しないばかりでなく、系統ある下水道に至つては六大都市でさへも其設備を有しないやうな現状である。

脆弱無價値な舊套を脱し得ない我國の建築物

建築物の改善は文化の進展上各方面からの要求で

あるが、その最も緊切なのは什う考へても災害の防止であるとする。美觀とか利便とか或は經濟上のいろいろな要求さては習慣上の必要等も建築物建設上の主要條件であるが、更に其等を超越した最大條件は、實に人命と財産を保護することであらねばならぬ。古來我國に於て震災や火災が與へた人命及び財産の損害は莫大なものでその被害の原因をなせる事情は今尙繼續されて居て、殆んど未だ改善されては居ない。尤も一小部分に於て最近多少改善された點もないではないが、その悪化した部分と相殺すると、何等の誇るべき進歩を見出すことは出來ない。即ち災害防止の大目的から觀て、我大小都市の建築物は依然として脆弱無價値な舊套を脱し得ないので、吾人の安寧幸福

を増進するにはまだ、甚だ不充分なのである。

我國の都市に於ける火災の頻發

慘憺たる過去の災害を追憶して、我國都市の蒙つた損害を今此處に精算するの暇はないが、過去の慘害に徴して現在及び將來に亘る災害の程度を豫測することは必ずしも意味なき業でもあるまい。過去三百年間江戸或は大阪京都の大火は、少くとも十年毎に一回多きは三年に一回の割合で、其都市の財産の可成り大きな部分を灰燼に歸したので、其損害の莫大であつたことは想像するに難くない。而して最近の火災が貽した損害の程度を見ると、其統計の示す處は實に左の通りである。

明治四十年	大正元年	同 二年	同 三年	同 四年	同 五年	同 六年	同 七年
九一五、九一九	七〇八、九八五	一、二二七、六五〇	六〇二、三六三	六八八、四五六	五一〇、八四一	五六二、一六四	六一七、九四六
羅災度數	羅災度數	羅災度數	羅災度數	羅災度數	羅災度數	羅災度數	羅災度數
一六、三一七	一八、〇五四	一八、〇五四	一三、四〇一	一七、〇一二	一六、二三八	一六、四七五	一七、八八三

で斯の直接損害を三千萬圓以上五千萬圓と算せられて居るが、其間接損害に至つては更に數倍に上ることは見易い事實で、以上の損害はそれ自身可成り大きな不安と活動の溢滞とを招來する。で更に吾人の大に憂慮せざるを得ないのは、將來遭遇すべき可能性を有する大都市の大火である。最近毎年一萬六七千回の火災度數を示す我國で、若し其内の僅一回でも颶風に際會しやうものなら、殊にそれが大都市の中樞區で、いもあらうものなら其都市の運命は全く祝融子に翻弄せられて忽ち經濟的生命を中斷されて了ふであらう。而も都市が大きくなればなる

程罹災の可能率を増し、その損害程度を高めるのだから、我大都市市民は將來ますます其不安の度を深くするであらう。されば今の内に完全な對應策を立てなかつたら、我都市市民は自ら不安の窮境を求めぬのだと云はれても仕方がないだらう。歐米の都市が夙に防火に留意し、其密集生活に於て最も怖るべき災害を防止すべく建築の改善を實現したことを思ふと、我國都市市民の無自覺な態度はむしろ甚だしき不合理と云はねばならぬ。

震災に對する我國民の無關心

更に震災の場合を考へると、我都市市民の不安は火災のそれよりも更に一層深刻なものがあらう。近くは濃尾地方を震源地とせる明治二十四年の大震災の如き、或は少し遡つて安政二年の江戸大地震の如き、同元年の近畿地震の如き、何れも當時の人心を恟倒せしめた程の慘狀を呈した。

斯の種の大地震が百年内外を週期として我國の各地に襲來することは、殆んど動かすべからざる推定理であるとするれば、其災害を全然免れる途はないとしても、どうかして其罹災の損害を軽減するだけの準備はしなければならぬ。然るに現在我國民のそれに対する態度は、あまりに無頓着で、寧ろ無關心なことの如くに考へて居るらしい。古來地震に對する災害防止の方法は難事とされて、今日でも尙可成り困難視して居るが、其損害を軽減する方法や技術は非常に進歩して居るので、建築物の建設に際し防火構造たらしめると同時に、耐震的たらしめることは識見ある者の已に試みつゝあるところである。尤も震災に對する防止運動を一般に理解させることは、火災のそれよりも一層困難であるが、その慘害が火災のそれよりも更に甚だしいことを思ふと如何にもしてその防止又は軽減準備の必要を宣傳せねばならぬ。

近時流行の「安全第一」

近來「安全第一」と云ふ標語の下に、交通事故の取締を厳にし、工場内の傷害軽減を提唱し、或は火災軽減の方法として各家庭に火元の注意を促す等は、消極的ではあるが一種の災害防止運動なのだから、大に之を歓迎するが、其根源たる建築物の改善による積極的防止策を等閑に附して居る態度は、所謂枝葉に走つて根本を忘れた蔑りを免れぬ。都市行政の責に任ずる者は素より、苟も世の所謂先覺者を初め一般市民は此際須く大に覺醒すべきではあるまいか。

(大正十一年八月稿)

附 録

關東大震災の被害に就いて

關東大震災の被害に就いて

〔一〕

天災地變の中で最も恐るべきものは先づ地震の災害であらふと思はれる。親子相援くるの暇もなく或は梁の下敷となりて壓死し、或は瓦石に打たれて重く傷き、悲鳴を擧げて援けを叫ぶも之を顧みるものさへなき其悲惨極まる修羅場を現出した彼の恐るべき激震は我國古來其例に乏しからぬのである。最近には明治二十四年の濃尾地方の大地震の如き、安政二年の江戸大地震の如き、更に遡りては慶長元年の京都地方大地震の如き何れも世界的の大慘禍として數へられて居るのである。而して此處に本年九月一日正午に起りたる關東地方の大地震に至つては實に我國開關以來の大慘害であつて、人命を損したる點に於

て、財貨を失ひたる分量に於て、又我社會文化の進展に一大支障を與へたる點に於て、古今東西を通じ殆んど其比類を見ないのである。人命を失ひたる點に於ては世界的記録たりし明曆三年(二百六十六年前)の江戸大火に匹敵し、財貨を失ひたる分量に於ては一九〇六年の桑港大震災のそれに數倍し、安政二年(六十九年前)江戸震災のそれに幾十倍して居るのである。

この驚くべき慘憺たる一大修羅場は如何にして惹起されしかを見るに、九月一日午前十一時五十八分伊豆大島附近の海底に起りし地殻の震動が京濱地方の地殻に傳はりしに過ぎないのである。而して地殻のその震動により震源地に近き地方の工作物は皆其波動を受け、其程度に於て大小こそあれ一齊に破壊されて多數の壓死者と負傷者を生じ、更に尋いで續發したる火災は殆んど凡ての工作物を燒燼したので

ある。

若し此の場合に我東京横濱等の都市に於ける建築物が地震と火災に耐へ得るものであつたならば、我々は何等の不安を生ずることなく平然として其間に處することが出来たのであるが、古來吾人の用ひ來りし構造物は主として重力と風力に耐ゆることを目的とし、其他の外力に對してはそれに抵抗し得る構造は餘り深く研究されなかつたのである。故に一朝地殻の震動に出會するや殆んど凡ての工作物は其安定を失して其構造に支障を生じ、甚しきは倒壊土崩するに至り多くの人命さへも損し、更に一方火災の襲ふところとなりて遂に此回の如き驚くべき大災害を生じたのである。

然らば堅固なる建築物詳しく言へば耐震耐火の目的を十分に達し得るやうな建築は出来ないのであらふか、古來科學的智識の幼稚にし

て構造の技術發達せざりし時代に於ては斯かる建築物は實際之を作り得なかつたのである。併し今日の科學の進歩は決して之を作り得ないを斷定するを許さない、殊に我國にありては明治十五六年頃より土木建築の専門技術家がなせる不斷の研究工夫によりて構造の各部に於ける設計及施工の改善は着々進みつゝ來たのである。中にも明治二十六年創設されたる震災豫防調査會は地震學者を中心として地質、土木、建築、機械等の各専門大家を網羅し、地殼震動に就ての學理的調査と其震動が構造物に及ぼす影響を理論的に、實驗的に又實際的に研究しつゝ、今日に及んだのであつて其間得るところ頗る多く、其の爲めに最近十年來我建築界に於ては耐震耐火の堅固なる建築物を作ることには必ずしも難事にあらずとさへ信せらるゝに至つたのである。乍併地震の大きさの程度は豫め之を限定し得るものでないのと、耐震構造と信せ

らるゝものも未だ實際にその耐震力を證據立てたのでないから、我建築界に於ける最近の建築物もそれぞれ或る程度の地震に耐ゆることを考へて居たに過ぎないと見るを至當とする。其或る程度とは果して如何なる程度なるやは設計者の考によりて各其度を異にして居るものと見なければならぬのであるが、明治二十七年及昨大正十一年の東京の地震は下町に於て其最大加速度は毎秒毎秒四百ミリ以上五百ミリ位のものであつたから普通其程度の地震には安全に耐へ且つもう少し強き地震に遭ふも甚しき破損なきことを考へて居たのではないかと思はれる。又一方に於て毎秒毎秒の加速度一千ミリ以上二千ミリ程度の地震に對して十分安全に耐へ得る構造に就ては我國の技術家中確實なる自信を以て之を設計し得たものは或はなかつたかと思はれる。しかしながら更に之を詳しく觀察する時は最近の大建築の設計